

平成四年三月

河野文庫目錄

金沢市立図書館

河野文庫目錄

序

河野文庫は、昭和七年河野家十四代通良氏の御寄贈により、金沢市立図書館の五番目の特殊文庫として誕生し、当時より現在に至るまで砲術・藩政などの研究者を始め多くの人々によって利用・活用されてきました。

今度、再び河野通良氏より先の御寄贈に加えて更に五七五点の御寄贈を頂き、ここに両者を併せて新たに目録を刊行し、河野家の方々が長年にわたり守ってきた貴重な史料を、今後も長く後世に伝えていくと共に、広く活用していただくことを念願するものであります。

河野家歴代の中でも十代久太郎氏は逸早く西洋砲術を学び、大砲を鑄造するなど、加賀藩の軍制に大きな影響を与えたばかりではなく、天文観測・測量術などの分野においても足跡を残しています。久太郎氏をはじめとする河野家の文武にわたるその功績は広く伝えていくに値するものであります。

おわりに、貴重な史料を御寄贈いただいた河野家に対し、心よりお礼申し上げます。

平成四年三月

金沢市立図書館

館長 中田 邦夫

德彦氏之
 心身及
 淑人
 多
 有
 此
 等
 人
 也
 其
 心
 身
 及
 淑
 人
 多
 有
 此
 等
 人
 也
 其
 心
 身
 及
 淑
 人
 多
 有
 此
 等
 人
 也

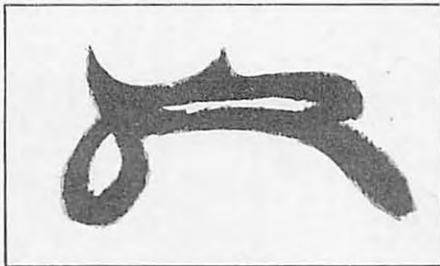
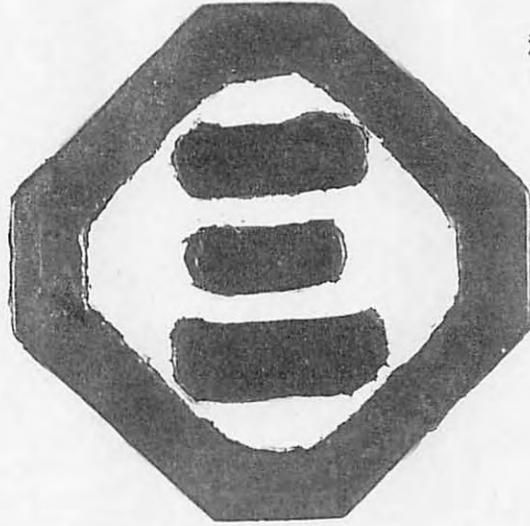
畠山義辰書狀 (095.00-6)

高島流砲術傳來卷
 柳火砲之授受
 皇朝所其由遠矣
 後奈良帝御宇天文十
 二年八月廿五日西洋
 之地波爾杜瓦爾國高
 船携鳥銃來於大隅國
 種子島以傳島主時光

高島流砲術傳來卷 (中略)
(095.26-54)

不淺流儀傳來之一卷
 令相傳畢他日有同志
 嗜好如足下者復宜以
 盟約被授之者也
高島流砲術
 高島口郎大夫
 嘉永二年酉歲
 茂致
 六月吉日
 村上定平
 茂致
 河野久太郎殿

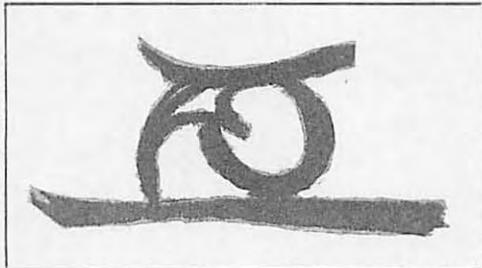
河野家々紋



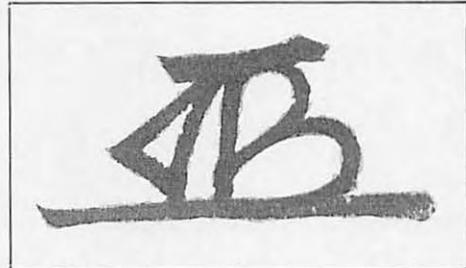
六代 武左衛門花押



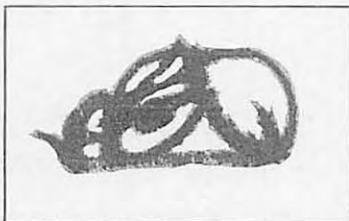
七代 団之佑花押



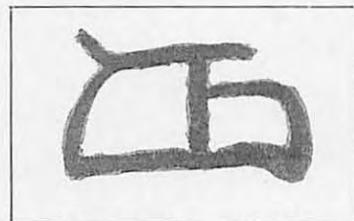
八代 左太夫花押



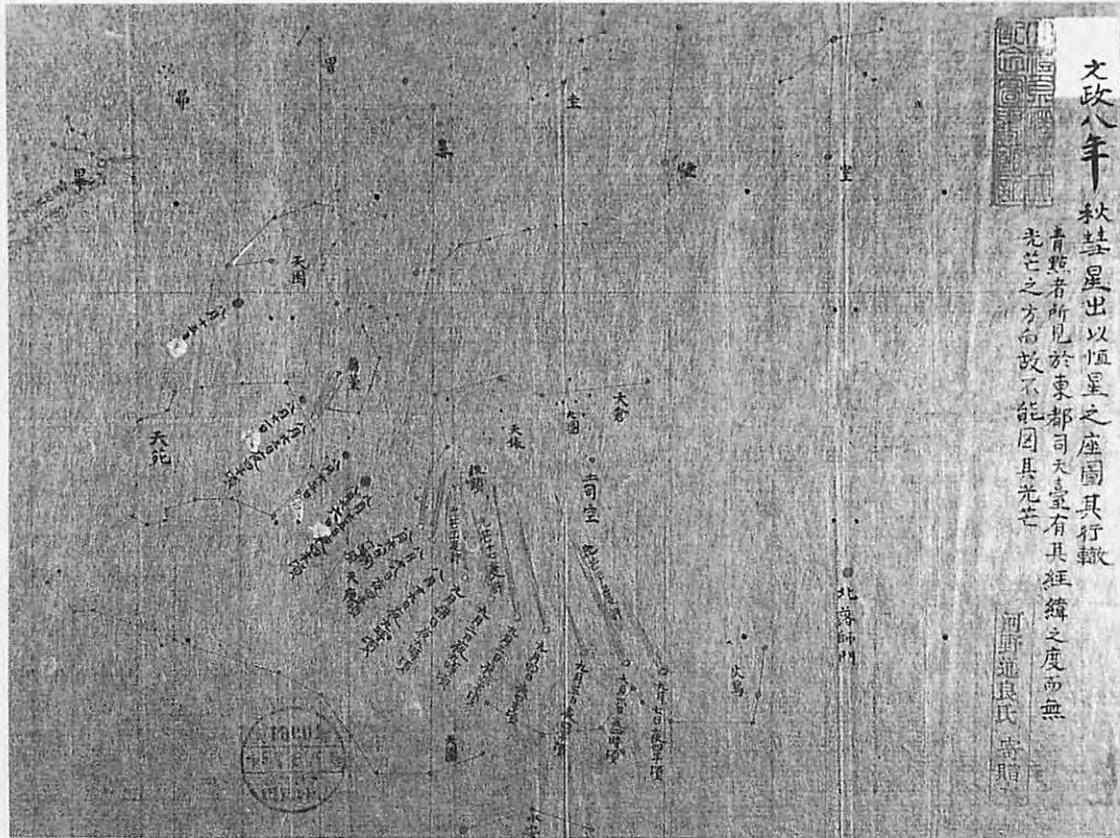
九代 三郎左衛門花押



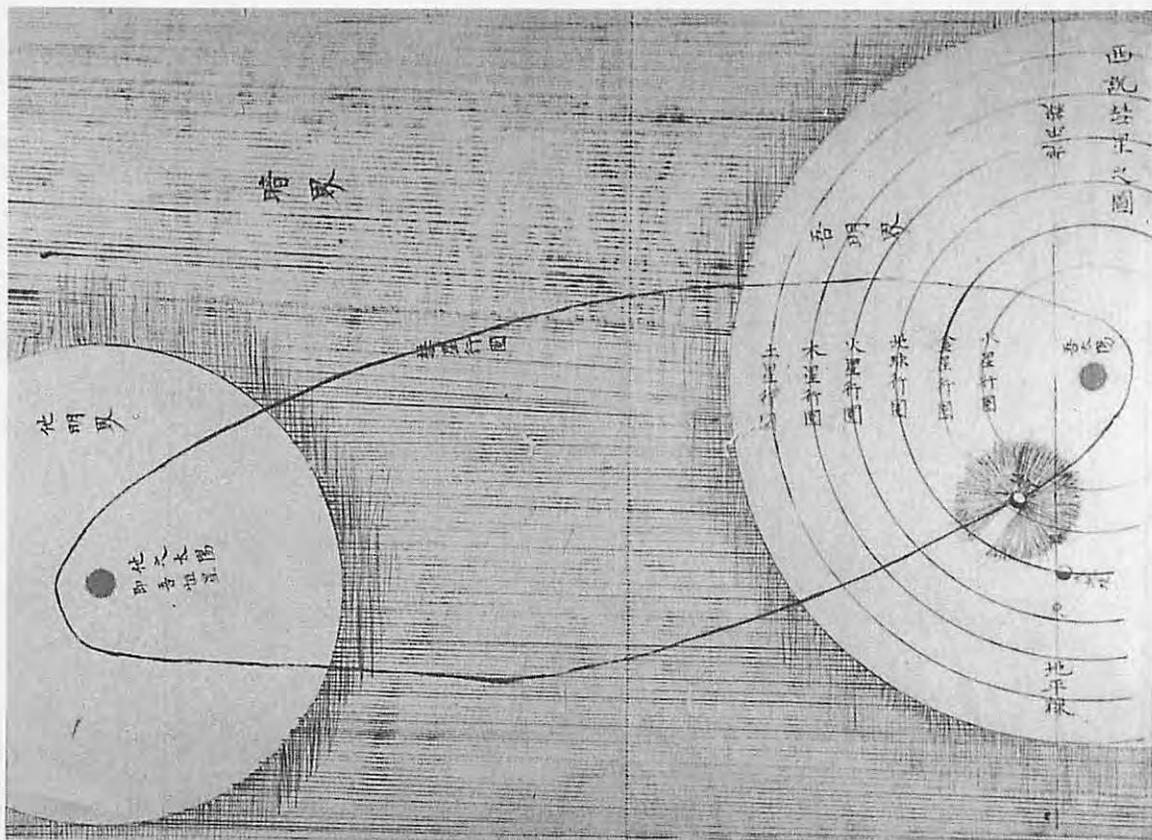
九代 三郎左衛門花押



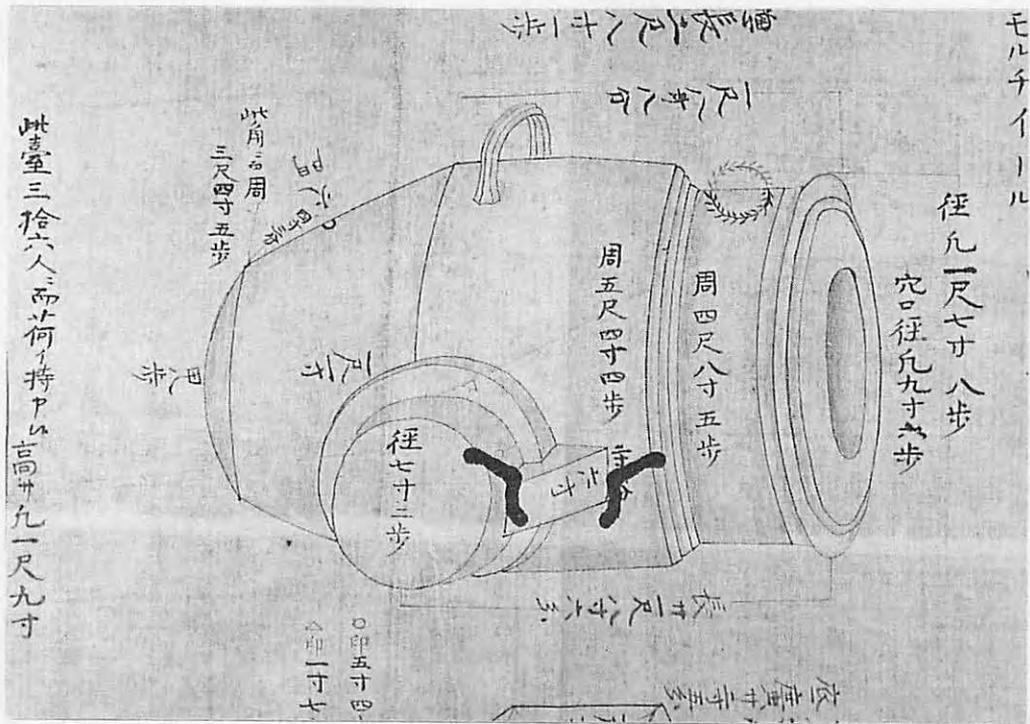
十一代 文太郎花押



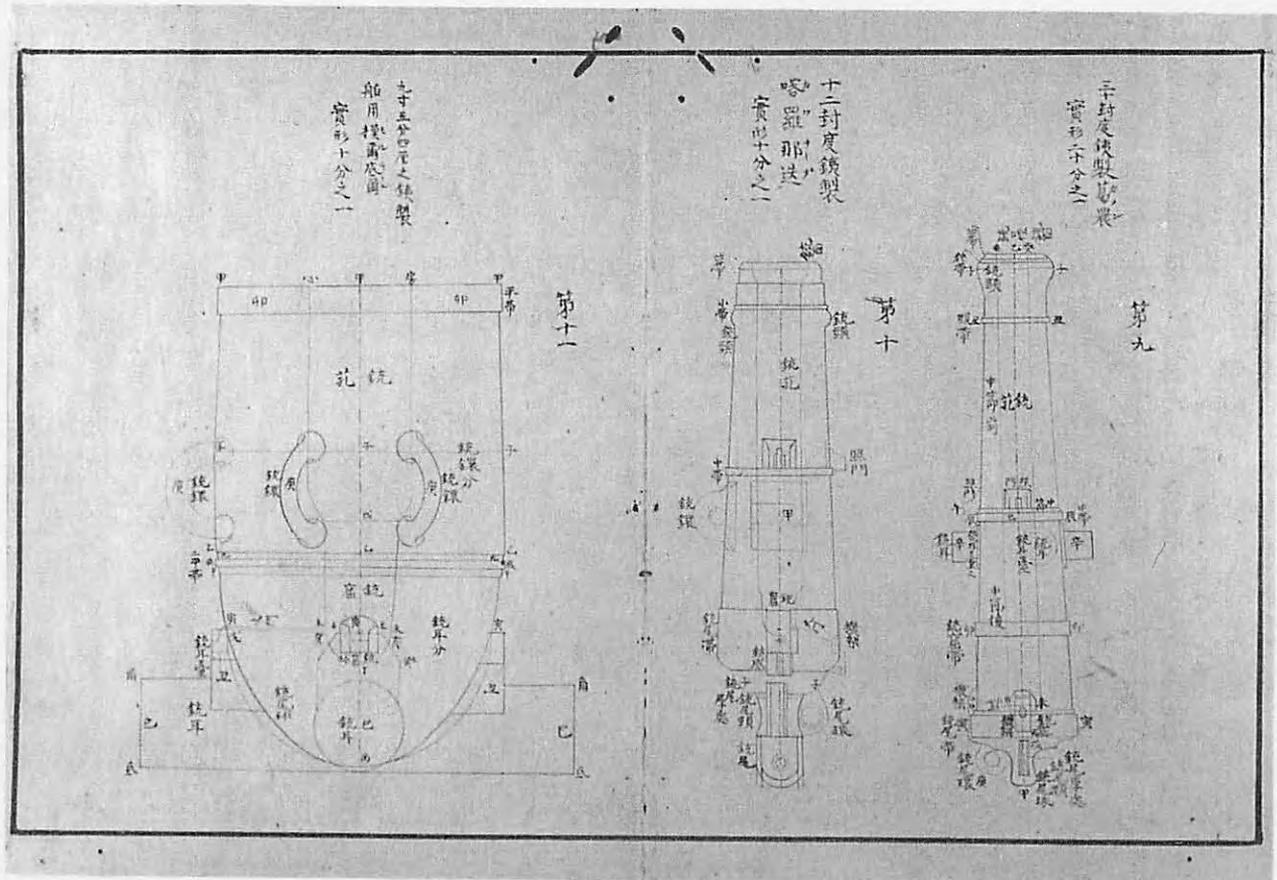
文政八年 秋彗星出以恒星之座圖其行轍 (095.31-16)
「文政八年尾星実測附圖」の内



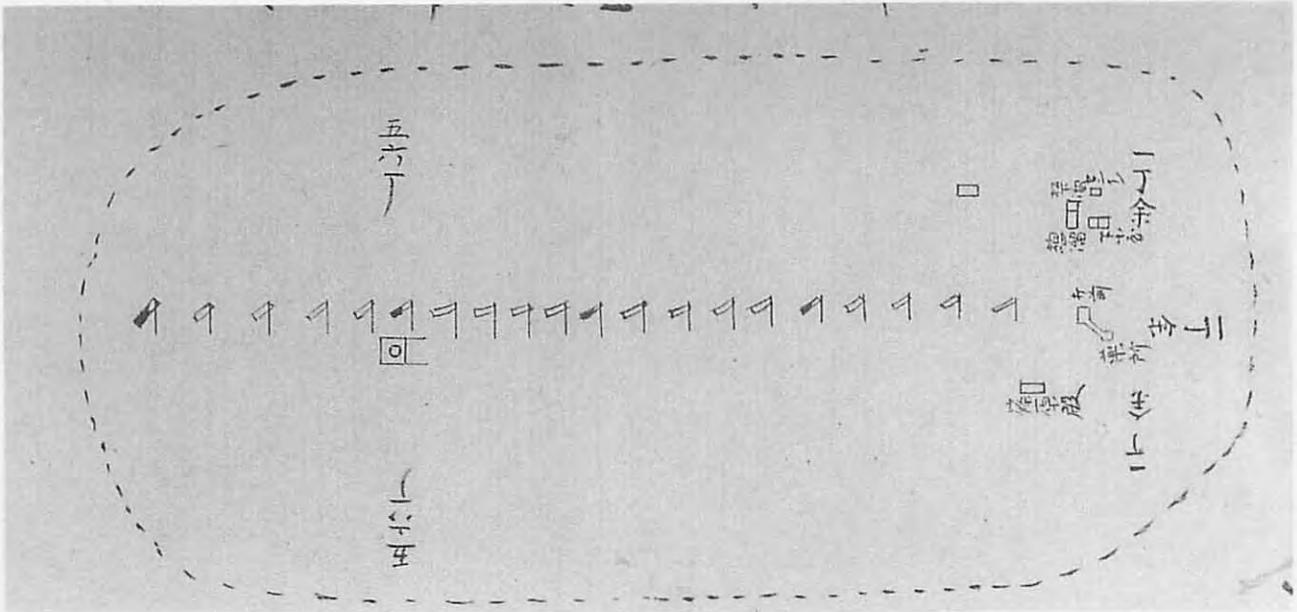
西說彗星之圖 (095.31-20)
「天保十四年彗星出現圖記」の内



亞兒地爾列里乙之圖 (095.26-13)
「兵学に関する図説集」の内



船砲新篇圖 (095.26-13)
「兵学に関する図説集」の内



打木浜試打場図 (095.26-43)
「大砲御用留」の内



天保十二年 於武蔵国徳丸原高島四郎
太夫西洋火砲打方御見分之図 (部分)
(095.26-3)



惣構西外堀 (鞍月用水)

金沢市立
図書館

旧長家上屋敷

三谷産業

日本たばこ
産業

玉川公園

中央小学校

旧村井家上屋敷

白山会館

旧長家下屋敷

大野庄用水

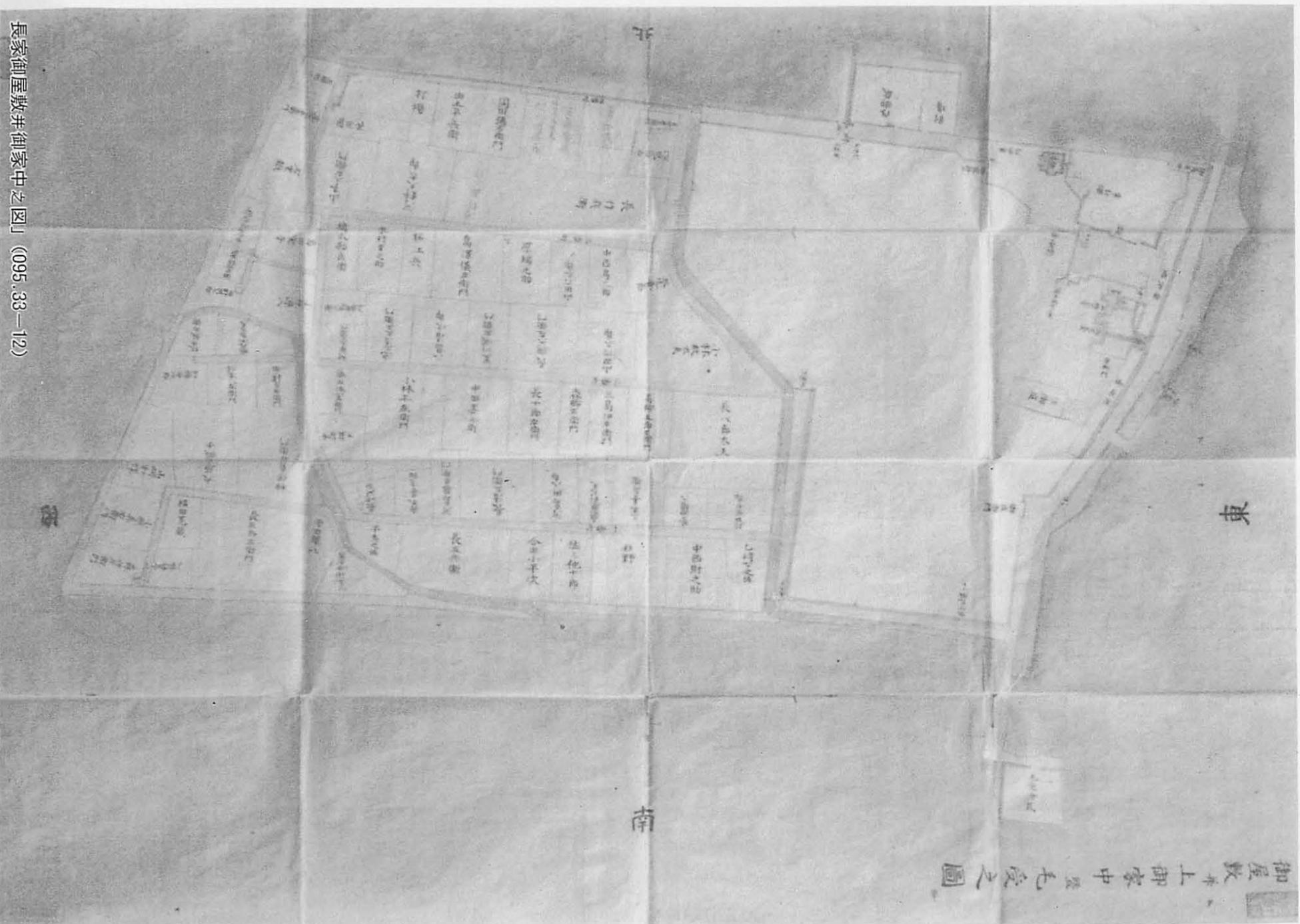
さくら児童
遊園地

旧河野家邸

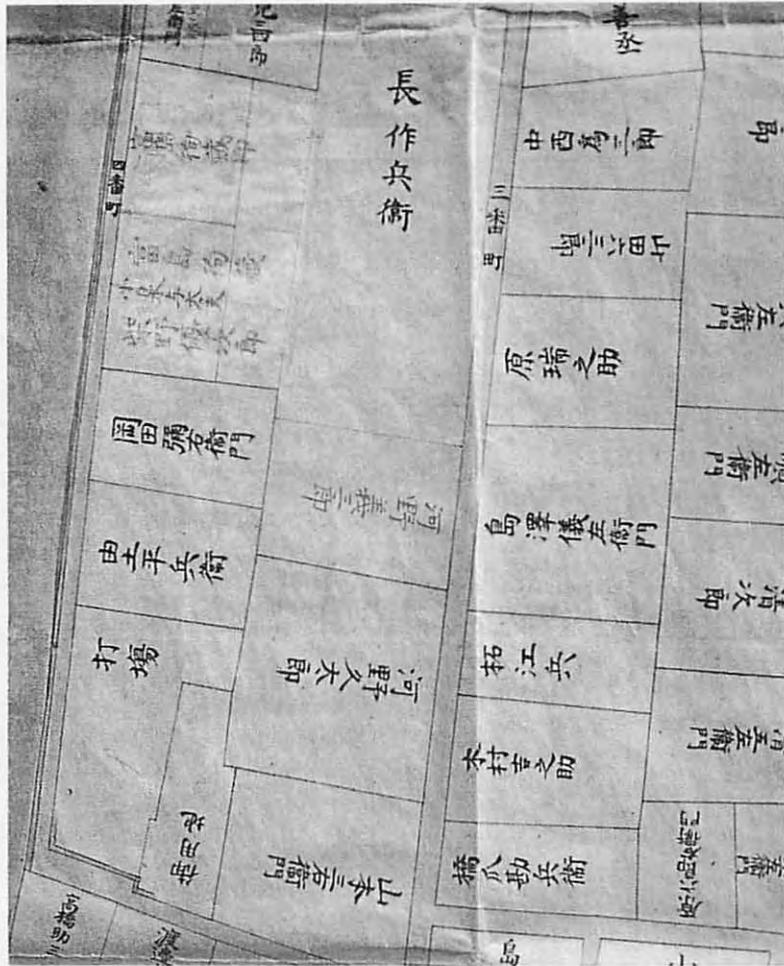
——— 線 旧域

- - - - - 線 現域

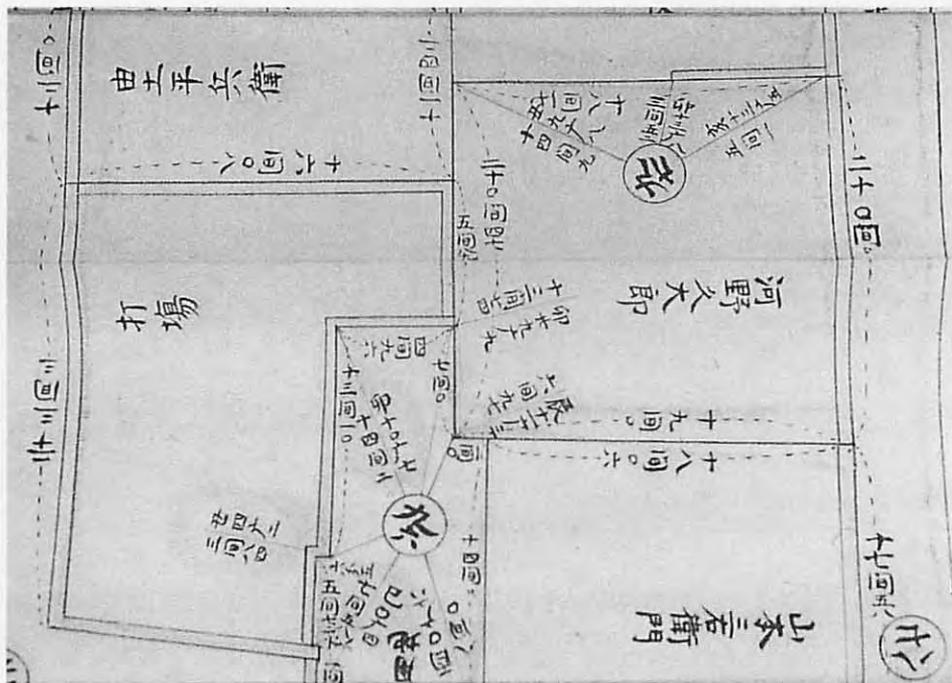
御屋敷并上御家中屋敷之圖



長家御屋敷并御家中之圖 (095.33-12)



前同 (河野久太郎邸周辺)



長家御上屋敷井御家中御絵図々籍 (095.33-13)

目 次

(分類番号)	(項目)	(頁)
○九五・〇	支配	一
○九五・〇〇	支配一般	一
○九五・〇一	前田家	一
○九五・〇二	長家	二
○九五・〇三	長家々中	三
○九五・一	河野家	四
○九五・一〇	家一般	四
○九五・一一	由緒	四
○九五・一二	知行	五
○九五・一三	役職	六
○九五・一四	勤仕	九
○九五・一五	家計	一一
○九五・一六	交際	一二
○九五・一七	家督・縁組	一四
○九五・一八	遺書	一五
○九五・一九	葬儀・墓所	一五

(分類番号)	(項目)	(頁)
○九五・二	武芸	一八
○九五・二〇	武家故実	一八
○九五・二一	兵法	一八
○九五・二二	刀術・居合術	一九
○九五・二三	槍術・棒術	二一
○九五・二四	柔術・馬術・武具	二一
○九五・二五	火箭・鉄砲	二二
○九五・二六	西洋砲術	二二
○九五・三	学芸	二八
○九五・三〇	一般	二八
○九五・三一	天文・測量	二九
○九五・三二	医術	三一
○九五・三三	絵図	三二
○九五・四	参考品	三六
解題		三七

番号 標 題 年 代 形態 墨付
点数

〇九五・〇〇 支配

〇九五・〇〇 支配一般

- 一 德田秀章寺地奇進状写 天文16・4・28 一紙
- 二 白小田善兵衛鏡板寄進状写并 天正6・10・1 一紙
- 添状
- 〇白小田善兵衛政一 大町堂々端観音堂鏡板(貞享三年写)
- 〇穴水大宮司四柳三河守一高野様
- 三 温井秀清神主田寄進状并堀松 天正7・極・16 一紙
- 八幡宮棟札写
- 〇温井藏人秀清一堀松村神主
- 〇棟札 応永十四年、文明十五年(延宝二年写)
- 四 (下部良長)書状(年頭祝詞) 不 折紙
- (良)長一長甲斐守
- 五 御茶被下旨二付礼書状 不 2・18 堅紙
- 〇長九郎左衛門
- 六 畠山義辰書状(馳走之義二付) 不 8・20 切紙
- 義辰一河野土佐守
- 七 法園坊書状(拝領御物二付) 不 8・22 堅紙
- 法園坊一森市之丞
- 八 松原内園書状(御迎方之義二付) 不 9・29 堅紙
- 松原内園一長九郎左衛門

九 消息調進二付書状 不 極・6 堅紙

二 德川家光書状(歳暮祝儀二付) 不 12・24 折紙

二 前田利常等書状断簡 不 切紙 6

〇正月二三日菅沼主水正長一 〇正月二三日稻垣信濃守重一

〇正月二四日保科弾正忠正圓一 〇正月二七日松肥前守利常一

〇正月二七日北条出羽守氏重一 〇二月十日牧野飛彈守忠成一

三 能州之國司畠山殿伝記 不 袋綴 28丁

三 能州刺史畠山氏略記 不 文政9・9・1写 袋綴 31丁

雪溪安宅和尚記、河野通義写

二 竹木等取締定 不 統紙 1

二 寛保二年御條令 文政4・10・18写 袋綴 7丁

河野通義写

六 能登巡行御泊り附 不 切統紙 1

〇九五・〇一 前田家

一 前田利家道興寺領安堵状写 天正7・6・28 一紙

利家一道興寺

二 前田利家遺書写 慶長4・2・21 統紙 1

筑前利家一羽柴肥前守(前田利長)

三 前田利常書状写(勢州へ大々) 不 一紙 1

神楽被申遣二付

筑前(前田利常)一如連老(長連龍)

四 前田利常印物(雜肴等給二付) 不 6・27 堅紙 1

肥前利常一長九郎左衛門(連頼)

番号	標	題	年	代	形態	墨付 点数
五	寛永拾六年分三州御公領秋夫	(寛永16)⑩・23	1	続紙	1	1
銀之事写						
奥村源左衛門、青木助丞、脇田九兵衛、宮木采女、長谷川大学、栗田 与左衛門、寺西木工兵衛、下村兵四郎、和田八左衛門―生駒監物、文 政九年九月十五日河野通義写						
六	前田利常知行宛行判物	寛永19・4・19	1	折紙	1	1
利常―高見九郎左衛門						
七	前田綱利(綱紀)判物(到来 物二付)	8・晦	1	切紙	1	1
加賀綱利―堀四郎右衛門						
八	前田家歴世一覽(利家―齊泰)	不	1	一枚	1	1
○九五・〇二 長家						
一	長家系図(清和天皇―善連)	不	20	袋綴	丁	1
二	長家先祖覚書(文治二―寛文 七)	不	44	袋綴	丁	1
三	長左兵衛尉長谷部信連未孫系 図	不	1	一枚	1	1
四	長对馬守重連未孫系図	不	1	一枚	1	1
五	長家御代子附	不	1	一枚	1	1
六	信連ノ事拔書	不	4	袋綴	丁	1
七	長統連事蹟	不	5	袋綴	丁	1
八	長統連并如庵事跡	不	23	袋綴	丁	1
九	長家旧事記	不	30	袋綴	丁	1
一〇	長家御旧記覚書	不	18	袋綴	丁	1

○九五・〇三 長家々々中

二	長家聞書(貞享二年尚連公御 婚礼記・天和二年御暇被下候 者共覚)	享保20写	44	袋綴	丁	1
三	長家清談覚書	不	23	横帳	丁	1
三	小泉家宝永元年記録(長信連 公墳墓復興記)	不	22	袋綴	丁	1
四	長家御廟所之図(鳳至郡河原 田村宅田地内)	不	1	彩色 一枚	1	1
五	長氏嫡胤法号寺附	不	14	袋綴	丁	1
六	尾州大塚長氏二付書状 (前田)兵部―成瀬	(元禄12) 2・29	1	切続紙	1	1
七	長宗顯御伊勢太神宮様江の願 書写(天正六年、能州支配二付)	不	4	袋綴	丁	1
八	長信連公靈社御昇進一卷覚	宝曆5	14	袋綴	丁	1
九	能州穴水白山縁起	安政5写	6	袋綴	丁	1
宝曆二年田屋安族写、安政五年河野正通再写						
一〇	山中医王寺御元祖様御像再興 之一件	文化14	6	袋綴	丁	1
一一	宗源神宣写(武健靈社明神号)	文政5・8・6	1	一紙	1	1
神祇道管領長上從三位侍從下朝臣良長―						
一二	武健靈社祈願祝詞	文政5・8・6	1	一紙	1	1
一三	武健靈社明神号拝領一件	不	2	切紙	1	1
一四	松岡寺替地一件書類	文化期	54	袋綴	丁	1
一五	松岡寺替地二付松波村百姓口 書 (文化13)	文化13	7	袋綴	丁	1

松波村百姓岡左衛門仲次右衛門、同作右衛門伊之助、同村肝煎藤左衛門、同
百姓津右衛門、同作右衛門、同助九郎、同四郎左衛門、同兵三郎、同伝
六、同惣左衛門、同頭振作兵衛―御改作御奉行所

六 長与六左衛門先祖畠山常陸介 不 切続紙 1
 墓所松波村松岡寺替地ニ付達 書家

二 長九郎左衛門家士之内戦死者 (元禄12) 7・28 袋綴 3丁
 石塔建立願
 小林六右衛門・千田知左衛門・堀内又兵衛一山川佐次右衛門・
 前川宇右衛門(元禄十二年八月七日之御用留ニ有之分)

七 長家御用留(貞享・元禄期、不 袋綴 14丁
 自他国御使者・御出入町人・ 御規式等)

三 御遺料内訳覚 文政4・10 切紙 1
 三嶋清次郎一御母公様

八 長家御勝手所留(享和二年分 享和3・2 袋綴 11丁
 御收納勘定帳) 御勝手所

四 連龍公一世侍臣戦死姓字 文政9・8・17写 袋綴 15丁
 元文五年孟冬上旬 長要人連理序、河野通義写

九 信長公等書簡写(二十一通) 天保10写 袋綴 17丁
 長十郎右衛門連了写

五 家中戦没者法名書 文政9・8・17 袋綴 2丁
 天正六年(慶長十九年)家中戦 死者名書 不 袋綴 1丁
 長臣大系図 天保5・5写 袋綴 16
 正徳二年田屋周久綱、天保三年此木孫丞連雄増補校訂、天保五年河野通義写

十 長家知行内訳表 不 一枚 1
 御勝手向等ニ付申上書 不 袋綴 7丁

八 万福寺書物借用并斉藤六五郎 不 切続紙 1
 義御尋等書状
 長与六左衛門一小林平左衛門、長八郎左衛門、小原才記、小林平六郎、
 高柳皆右衛門

十一 少参事長谷部宿称連賢馬上之 明治3・5・26 ガラス原板 2
 像 「明治三年五月二六日於仮御住居、下村半六写ス。教業之内ヲ以テ賜」

九 長家々来山本法山、同勇次義 不 7・22 切紙 1
 二付書状

十二 金沢藩少参事長谷部宿称連賢 不 ガラス原板 1
 写真 「明治四年正月旬ニ賜、栄」

二 長家々臣ニ付山田氏咄 不 横帳 5丁
 高見九郎左衛門仕官・知行ニ 不 2・12 切紙 1
 付答書
 高見九郎左衛門一早野助右衛門

十三 長連賢写真等 写真 3
 「明治五壬申歳賜」

三 矢部金之丞系譜(長臣大系図 不 一紙 1
 稿本)

十四 長谷部神社等祝詞 明治6・8 袋綴 6丁
 東四柳環、小林慶山、「河野肥前守侍松英盤、河野土佐守尊盤祝詞」附

三 長家中別蓋家名書 不 切紙 1

○九五・一 河野家 ○九五・一〇 家一般 ○九五・一一 由緒 ○九五・一二 知行

番号 標 題 年 代 形態 墨付 点數

○九五・一 河野家

① - 75-3
③~⑩ - 75-4
⑪~⑱ - 75-5

75-6

一	河野家日用雜記(一)十九	宝曆3、明治2	袋綴	17
二	意通(久太郎)名相生考書 三木次郎兵衛政輔—河野久太郎	宝曆11・首夏・吉	折紙	1
三	河野三郎左衛門判印鑑控 (河野三郎左衛門) 1万屋平八	文化9・8	切紙	2
四	河野三郎左衛門判印鑑	不	切紙	1
五	河野久太郎判印鑑書	弘化2・9	切紙	1
六	河野家年中行事(上・下)	弘化2	袋綴	2
七	河野家記	不	袋綴	7.3丁
八	河野家奉公人証文 御威橋御座屋茂兵衛—河野久太郎	寅・9	切紙	1
九	如庵様等よりの判物目錄	不	切紙	1
二〇	長連頼判物等留	不	長帳	5丁

○九五・一一 由緒

一	六波羅施行状写并由來書	不	堅紙 切紙	2
二	予章記(伊予河野氏之記) 貞応二年八月十五日前陸奥守平(北条義時)一 河野九郎通久伊予国石井郷地頭職補任 宝永7・究臘		袋綴	53丁

吉田美雅

三	河野肥前守由緒	不	一紙	4
四	河野三郎左衛門先祖之覺 河野三郎左衛門—浦野孫右衛門	寛文2・4・26	堅紙	1
五	河野藤兵衛履歷	不	一紙	1
六	河野団之佑先祖由緒一類附 河野藤兵衛—小林平左衛門	享保4・7	袋綴	10丁
七	河野左太夫先祖由緒一類附帳 河野左太夫—小林紋太夫	宝曆12	袋綴	12丁
八	河野三郎左衛門由緒一類附 河野三郎左衛門—山田七郎太夫	天明6・6	袋綴	2
九	河野三郎左衛門先祖由緒一類 附控帳下帳 河野三郎左衛門—前田修理、不破彦三、菊地大学	寛政3・7	袋綴	2
二〇	河野三郎左衛門先祖由緒一類 附 河野三郎左衛門—小原才記	寛政7・9	袋綴	9丁
二	河野三郎左衛門先祖由緒并一 類附下書 河野三郎左衛門—小林平左衛門、長八郎左衛門、小原才記、小林平六郎、河野三郎左衛門—中川清六郎	文化11・2	袋綴	3
三	河野三郎左衛門履歷書上	不	一紙 切紙	2
三	河野久太郎由緒一類附帳 河野久太郎—小林平左衛門、長八郎左衛門、小原才記、小林平六郎	文化11	袋綴	4丁
四	河野氏系図 淡水河野通義	文政10・⑥写	袋綴	30丁
五	河野久太郎先祖由緒并一類附	文政12・2	袋綴	17丁

- 河野久太郎—小林平左衛門、此木左太夫
- 二 河野久太郎先祖由緒并一類附 文政12・3 袋綴 11丁
- 河野久太郎—前田式部、中川八郎左衛門、多賀予一右衛門
- 七 河野文太郎由緒一類附帳 天保9・4 袋綴 3丁
- 河野文太郎—此木左太夫、長五兵衛、小林紋太夫
- 八 河野文太郎由緒一類附下帳之 嘉永5・正 袋綴 7丁
- 控帳
- 河野文太郎—前田内蔵助、前田外記、小幡主膳
- 九 河野秀通先祖由緒(後欠) 明治5 袋綴 5丁
- 二 河野家先祖書 不 切紙 1
- 三 仙舟実方系図 不 一紙 1

〇九五・一二 知行

- 一 長連龍知行宛行判物 天正8・6・27 折紙 1
- 連龍—河野土佐守
- 二 長連龍知行宛行判物 文祿2・⑨・26 折紙 1
- 連龍—河野藤兵衛尉
- 三 長連龍知行宛行書并阿岸与一 文祿3・12・21 切紙 2
- 右衛門等知行所替書
- 与一右衛門、(三井) 惣作—河野藤兵衛
- 四 長連龍加増宛行判物 寛永11・12・3 折紙 1
- 九郎左衛門連頼—河野弥次兵衛
- 五 長連龍合力銀子給付判物 2・7 折紙 1
- 九郎左衛門連頼—河野三郎左衛門
- 六 長尚連御蔵返米を以知行高宛 寛文11・12・15 統紙 1
- 行印物
- 尚連印—河野三郎左衛門

河野文庫目録

- 七 河野家代々知行宛行状等御書 不 袋綴 43丁
- 立留 寛文11、天保14年

- 八 長尚連知行所付印物 寛文12・5・15 堅紙 1
- 尚連印—河野三郎左衛門
- 九 長時連知行宛行判物 延宝8・12・29 堅紙 1
- 九郎左衛門時連—河野武左衛門
- 二 長尚連知行所付印物 元祿12・12・22 堅紙 1
- 尚連印—河野團丞
- 二 長尚連知行宛行判物 元祿12・12・22 堅紙 1
- 大隅尚連—河野團丞
- 三 長尚連知行所付印物 宝永元・7・朔 堅紙 1
- 高連印—河野團丞
- 三 家督知行目録 不 堅紙 1
- 河野左太夫

- 二 知行假所付之覚 宝曆元・12・21 統紙 1
- 会所—河野左太夫、(裏書) 御用番小林紋太夫
- 三 知行目録 不 堅紙 1
- 河野三郎左衛門

- 六 家督知行目録 不 堅紙 1
- 河野三郎左衛門
- 七 加増知行目録 不 堅紙 1
- 河野三郎左衛門

- 六 知行假所付之覚 天明5・7・6 統紙 1
- 会所—河野三郎左衛門、(裏書) 御用番長新丞
- 六 加増知行所付之覚 享和3・⑩ 一紙 1
- 会所—河野三郎左衛門、(裏書) 御用番小林平左衛門
- 三 家督知行目録 不 堅紙 1

○九五・一 河野家 ○九五・一二 知行 ○九五・一三 役職

番号 標 題 年 代 形態

墨付
点数

一 河野久太郎

三 知行目録

一 河野久太郎

三 知行假所附之覚

会所一河野久太郎、(裏書) 月番小林平左衛門

三 知行目録

一 河野文太郎

三 家督知行目録

一 河野文太郎

三 知行假所附之覚

会所一河野文太郎、(裏書) 月番小林紋太夫

三 給禄高目録

連賢印一河野栄

○九五・一三 役職

五 河野左大夫使役申付状

一 河野左大夫

六 河野左大夫式台取次役申付状

一 河野左大夫

七 河野左大夫小将組ニ召出申付状

一 河野左大夫

八 河野左大夫会所奉行申付状

一 河野左大夫

九 河野左大夫頭並申付状

一 河野左大夫

二 河野三郎左衛門義父左大夫頭支配ニ申付状

一 河野三郎左衛門

二 河野三郎左衛門義九郎左衛門附用達役并納戸奉行横目役申付状

一 河野三郎左衛門

三 河野左大夫手廻徒頭申付状

一 河野左大夫

三 河野三郎左衛門義将之佐部屋附用達役并横目役申付状

一 河野三郎左衛門

四 河野三郎左衛門義将之佐部屋納戸奉行申付状

一 河野三郎左衛門

五 河野三郎左衛門会所奉行申付状

一 河野三郎左衛門

一 河野藤兵衛頭並ニ申付状 享保18・12・24 切紙 1

一 河野藤兵衛

二 河野藤兵衛頭番所勤申付状 元文元・12・18 切紙 1

一 河野藤兵衛

三 河野藤兵衛せがれ左大夫召出状 元文3・11・26 切紙 1

一 河野藤兵衛

四 河野左大夫諸場諸番所番帳判 宝曆3・5・14 切紙 1

一 河野左大夫

一 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

二 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

三 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

四 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

五 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

六 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

七 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

八 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

九 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十一 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十二 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十三 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十四 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十五 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十六 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十七 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十八 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

十九 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1

二十 河野三郎左衛門 天明2・2・8 切紙 1



河野三郎左衛門

六 河野三郎左衛門表頭役申付状 寛政元・5・25 切紙 1

取次・右膳用事方用捨

六 河野三郎左衛門近習頭役申付 寛政12・12・18 切紙 1

河野三郎左衛門

七 河野三郎左衛門自分仕与力申付状 寛政元・11・15 切紙 1

河野三郎左衛門(長連起死去二付、長連愛近習頭)

七 河野三郎左衛門義中西摩兵衛 享和元・12・6 切紙 1

河野三郎左衛門

八 河野三郎左衛門組裁訴役申付状 寛政元・12・2 切紙 1

元組先筒足輕頭申付状

八 河野三郎左衛門 元組先筒足輕頭申付状 享和元・12・6 切紙 1

河野三郎左衛門

河野三郎左衛門

九 河野三郎左衛門勝手奉行并勘定奉行申付状 寛政3・2・26 切紙 1

支配二申付状

九 河野三郎左衛門 支配二申付状 享和元・12・6 切紙 1

河野三郎左衛門

一〇 河野三郎左衛門寺社取次役兼帶申付状 寛政3・12・2 切紙 1

一〇 河野久太郎御兒小將役申付状 享和元・12・8 切紙 1

河野三郎左衛門

一一 河野三郎左衛門山之内土蔵奉行兼帶申付状 寛政4・7・18 切紙 1

一一 河野三郎左衛門御扶持引直申付状 享和2・12・27 切紙 1

河野三郎左衛門

一二 河野三郎左衛門徒頭申付状 寛政5・3・14 切紙 1

一二 河野三郎左衛門義加増并勝手奉行申付状 享和3・⑤・16 切紙 1

河野三郎左衛門

一三 河野三郎左衛門義与三吉・右膳部屋附用事方兼帶申付状 寛政5・12・22 切紙 1

一三 河野三郎左衛門義山田六郎五郎元組持筒足輕頭申付状 享和4・2・28 切紙 1

河野三郎左衛門

一四 河野三郎左衛門義小原才記元組小將頭申付状 寛政7・12・10 切紙 1

一四 河野久太郎近習詰申付状 文化4・3・6 切紙 1

河野三郎左衛門

一五 河野三郎左衛門近習頭申付状 寛政9・⑦・4 切紙 1

一五 河野三郎左衛門義山之内土蔵奉行并近習頭役指除申付状 文化7(3)・8 切紙 1

河野三郎左衛門

河野三郎左衛門(勝手奉行・勘定奉行・山之内土蔵奉行兼帶、寺社)

○九五・一 河野家 ○九五・一三 役職 ○九五・一四 勤仕

番号 標 題 年 代 形態

墨付
点数

八

三 河野三郎左衛門義新九郎部屋 文化11・4・23

附頭兼帶申付状

―河野三郎左衛門

切紙

1

望 河野久太郎武具奉行・組織許
役兼帶申付状

―河野久太郎

切紙

1

三 河野三郎左衛門義新九郎部屋 文化12・5・26

附頭兼帶用捨申付状

―河野三郎左衛門

切紙

1

哭 河野久太郎徒頭申付状

―河野久太郎

天保4・正・7

切紙

1

三 河野久太郎御時宜役申付状 文化13・7・6

―河野久太郎

切紙

1

哭 河野久太郎武具奉行指除申付状

―河野久太郎

天保5・12・2

切紙

1

三 河野三郎左衛門義神保貞右衛門元組持弓足輕頭申付状 文政2・7・10

門元組持弓足輕頭申付状

―河野三郎左衛門

切紙

1

哭 河野久太郎義山本三右衛門元組小將頭申付状

―河野久太郎

天保6・7・18

切紙

1

三 河野三郎左衛門部屋附頭兼帶申付状 文政2・7・23

―河野三郎左衛門

切紙

1

吾 河野久太郎せがれ文太郎召出家老月番支配申付状

―河野久太郎

天保8・12・18

切紙

1

三 河野三郎左衛門中小將頭申付状 文政4・3・16

―河野三郎左衛門

切紙

1

三 河野久太郎近習用人役申付状

―河野久太郎 (組織許兼帶用捨)

天保11・7・6

切紙

1

三 河野三郎左衛門義九郎左衛門附用捨申付状 文政5・5・25

―河野三郎左衛門

切紙

1

三 河野文太郎御使役申付状

―河野文太郎

天保11・7・6

切紙

1

三 河野三郎左衛門三男義三郎中小將頭支配申付状 (写共) 文政8・2・2

―河野三郎左衛門

切紙

2

三 河野久太郎義小原兵右衛門元組先筒足輕頭申付状

―河野文太郎 (小將頭用捨, 省略方兼帶)

天保11・7・6

切紙

1

三 河野久太郎義為自分仕与力月番支配申付状 文政11・12・22

―河野久太郎

切紙

1

三 河野文太郎御扶持引直申付状

―河野文太郎 (五人扶持)

天保14・2・19

切紙

1

三 河野久太郎義小原兵右衛門元組持筒足輕頭申付状 天保15・10・22

―河野久太郎

天保15・10・22

切紙

1

河野久太郎(先筒足輕頭用捨)
河野文太郎御式台御取次役并 嘉永2・9・6 切紙 1
御番中御横目役申付状
—河野文太郎

河野久太郎義長三郎兵衛元組 嘉永4・7・6 切紙 1
持弓足輕頭申付状
—河野久太郎(持筒足輕頭用捨)

河野文太郎会所奉行申付状 嘉永5・12・22 切紙 1
—河野文太郎

河野文太郎頭並表頭役申付并 安政3・10・18 切紙 1
せがれ震太郎召出又三郎附兒
小將申付状
—河野文太郎

河野震太郎御式台番申付状 文久2・2・28 切紙 1
—河野震太郎

河野震太郎御近習詰申付状 文久3・7・8 切紙 1
—河野震太郎(御式台番用捨)

河野文太郎自分仕与力申付状 嘉永4・12・22 切紙 1
—河野文太郎

河野久太郎足痛二付御暇願 巳・9・4 続紙 1
—河野久太郎—小林平六郎、小原才記、此木左太夫(奥書)此木左太夫

御武具方主付被申付二付起請 不 一紙 1
—小林平六郎、小原才記(裏書)小林平六郎

河野采陸軍假少尉辞令 明治4・7 切紙 1
—金沢藩—河野采

河野秀通出行達書 明治5・7・18 切紙 1
—石川界—河野秀通

河野正通出行達書 明治5・7・18 切紙 1
—石川界—河野正通

〇九五・一四 勤仕

長連頼書状(能州之義加藤采 不 7・15 折紙 1
女申談二付)

長連頼書状(米直段并運賃二 不 9・9 切紙 1
付)前欠
九郎左衛門連頼—河野木工助

長連頼書状(年貢米皆済之儀 不 11・8 切紙 1
等尋二付)
九郎左衛門連頼—河野木工助

長連頼書状(馬差出二付) 不 11・22 折紙 1
九郎左衛門連頼—河野木工助

長連頼申付状(能州下り二付) 不 正・29 堅紙 1
九郎左衛門連頼—河野三郎左衛門

長連頼書状(能州在々田地并 不 3・25 折紙 1
お鶴等貸米二付)
九郎左衛門連頼—河野三郎左衛門

長連頼書状(能州二御目付衆 不 3・28 折紙 1
下二付)
九郎左衛門連頼—河野三郎左衛門

長連頼書状(在々田地管理等 不 4・朔 折紙 1
二付)
九郎左衛門連頼—

○九五・一 河野家 ○九五・一四 勤仕 ○九五・一五 家計

番号	標	題	年	代	形態	墨付 点數	備考	紙種	丁数
九	長連頼書状	(端午之御祝儀上)	不	4・18	折紙	1	九郎左衛門―河野三郎左衛門	堅紙	1
	二付)								
二〇	長連頼書状	(お鶴等借米之利)	不	4・19	切紙	1	九郎左衛門―河野三郎左衛門	堅紙	1
	米二付)								
二	長連頼書状	(御目付衆能州御)	不	5・29	切紙	1	九郎左衛門連頼―河野三郎左衛門	一紙	1
	廻二付)								
三	長連頼書状	(能州用所仕廻)	不	6・10	折紙	1	九郎左衛門連頼―河野三郎左衛門	一紙	1
	付)								
三	長連頼書状	(能州から竹為登)	不	9・2	堅紙	1	九郎左衛門連頼―河野三郎左衛門	堅紙	1
	二付)								
四	長連頼書状	(能州在々廻り)	不	9・18	堅紙	1	九郎左衛門連頼―河野三郎左衛門	折本	1
	付)								
五	長連頼書状	(ちりはま手舟)	不	10・29	切紙	1	九郎左衛門連頼―河野三郎左衛門	切紙	1
	付)								
六	長連頼書状	(能州下りの義等)	不	11・7	折紙	1	九郎左衛門連頼―河野三郎左衛門	切紙	1
	二付)								
七	長連頼書状	(阿岸掃部百姓籠)	不	11・9	折紙	1	九郎左衛門連頼―河野三郎左衛門	袋綴	11丁
	破二付)								
六	長連頼書状	(田植時分能州下)	不	不・20	堅紙	1	九郎左衛門―河野三郎左衛門	堅紙	1
	り二付)								
二	長連頼書状	(能州在々廻り之)	不		堅紙	1	九郎左衛門―河野三郎左衛門	堅紙	1
	儀二付)								
三	長連頼添状	(利米之仕分)	不		一紙	1	九郎左衛門―河野三郎左衛門	一紙	1
	九郎左衛門―河野三郎左衛門								
三	吉田与市左衛門返書	(種もみ)	不		一紙	2	九郎左衛門―河野三郎左衛門	一紙	2
	遣之儀二付)	(後欠)							
三	(長連頼) 申付状	(連頼娘達)	不		一紙	1	吉与一左衛門―河野三郎左衛門	一紙	1
	之借米之利米等	二付)							
三	(長連頼) 書状	(米買入并道)	不		堅紙	1	閑・池嶋之儀等	堅紙	1
	閑・池嶋之儀等	二付)							
四	明和八年始御規式御作法		不		折本	1	加州長甲斐寺内高柳皆右衛門・河野三郎左衛門―内田源三郎・田村左衛門	折本	1
三	長連愛帰国	二付懸日申送状			切紙	1	(享和元) 4・4	切紙	1
	加州長甲斐寺内高柳皆右衛門・河野三郎左衛門―内田源三郎・田村左衛門								
	次・松本駒丞・上田宇現司・柿崎源左衛門・石田伝右衛門・加賀屋与七郎・大嶋市左衛門								
三	前田(知周) 御家老役被仰付		(享和二)		切紙	1		切紙	1
	二付御祝詞申上度取成依頼状								
三	前田(純孝) 寺社奉行役被仰付		(享和二)		切紙	1		切紙	1
	二付御祝詞申上度取成依頼								
六	検地方格式覚帳写								
	御算用場―定検地奉行・改作御奉行								

元 檢地一卷写 享和2・4 袋綴 43丁

林弥四郎・江上清左衛門・沢崎源太郎・前田源六郎・賀古橋江・伊藤三郎大夫・山岸七郎兵衛・木梨左兵衛・毛利与兵衛・中村宅左衛門・諸郡御扶持人中

三 目耳録 袋綴 2

○雜録之類(屋敷向) 文化十一年 ○日用諸事雜記之部卷 天保十二年

三 東海道通り御帰国日記(江戸 文政11・正 袋綴 36丁

御用留、三之卷)

河野久太郎

三 御政事御尋ニ付存寄之趣申上 天保4・8 袋綴 3

書

河野久太郎

三 救荒策集 天保7・8年 袋綴 45丁

河野久太郎通義

三 式部殿御申之義書狀断簡 天保14・⑨ 切紙 1

(河野久太郎)

三 御仕与力留(三・五) 嘉永4・安政3 袋綴 3

慶応3

育龍(河野文太郎)、水舟(河野震太郎)

三 願書裏印ニ付通知状 不・4・12 切紙 1

小林紋太夫・河野弥次平

三 前田主馬方へ参上之義ニ付書 不・7・18 切紙 1

状

河野久太郎・前田主馬

三 御帰着御届之儀ニ付申上状 不・8・18 切紙 1

前田主馬・河野久太郎

三 御門外御供連之儀ニ付申上状 不・10・19 切綴紙 1

河野文庫目録

山本三右衛門(河野)久太郎

四 御用ニ付出頭申付状 不・10・21 切紙 1

大原十郎左衛門・河野久太郎

四 夷敵御備方案書(紙背龍門寺 不 長帳 4丁

等書状)

(河野)

四 帰宅之節心得方覚 不 切綴紙 2

○九五・一五 家計

一 小物成銀勘定書 慶安元・11・2 堅紙 1

(長) 連頼・河野奎之助

二 慶安参年分貸米契請拂書 慶安4・8・24 堅紙 1

(長) 連頼・河野奎助

三 承応元年分貸米請拂書(後欠) (承応2) 堅紙 1

明暦元年分貸米請拂書 明暦2・8・3 堅紙 1

(長) 連頼・河野三郎左衛門

五 万治元年分貸米請拂書 万治2・8・7 堅紙 1

(長) 連頼・河野三郎左衛門

六 寛文四年分貸米請拂書 寛文5・9・2 堅紙 1

(長) 連頼・河野三郎左衛門

七 長尚連書状(借米取り扱いに 寛文12・5・15 堅紙 1

付)

(長) 九郎左衛門(尚連)・河野三郎左衛門

八 収納米蔵宿預之義ニ付届 享保19・6 一紙 1

河野藤兵衛・町御奉行所(南町蔵宿平野屋半助)

九 収納米蔵宿預之義ニ付届 宝曆2・4 続紙 1

長九郎左衛門内河野左太夫・町会所(奥書)堀内七郎兵衛、小林紋太夫

○九五・一 河野家 ○九五・一五 家計 ○九五・一六 交際

番号 標 題 年 代 形態 墨付 点数

- 一 長八郎太夫一町会所、(裏書) 町会所 文化9・8 一紙 1
- 二 収納米蔵縮方依頼書 河野三郎左衛門一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿南町万屋平八) 文化14 切紙 2
- 三 蔵宿万屋平八判印鑑書 文政元・6 一紙 1
- 三 収納米蔵縮方依頼書 河野三郎左衛門一町会所(裏書) 町会所(蔵宿南町有松屋吉郎兵衛) 文政6・12・23 一紙 1
- 三 借用米証文 野田村太三右衛門、岡村組合頭助右衛門一古野三郎左衛門(申三月十五日返済) 文政6・12 一紙 1
- 四 御延米証文 下林村宇兵衛、肝煎兵助一河野三郎左衛門(奥書) 野々市村吉兵衛 文政7・12・24 一紙 1
- 五 借用米証文 野田村彦兵衛、せがれ伝兵衛一河野三郎左衛門 文政7・12 一紙 1
- 六 御延米証文 下林村百姓宇兵衛、肝煎兵助、組合頭庄兵衛一河野三郎左衛門(奥書) 野々市村吉郎兵衛 文政8・10・4 一紙 1
- 七 借用銀証文 岡部五郎左衛門一河野三郎左衛門 文政8・12 切紙 1
- 八 借用米証文 野田村彦兵衛、せがれ伝兵衛一河野三郎左衛門 文政12・6 一紙 1
- 九 収納米蔵縮依頼書 河野久太郎一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿南町有松屋吉郎兵衛) 天保8・6 一紙 1
- 三 収納米蔵縮依頼書 河野久太郎一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿 前同) 弘化3・8 一紙 1
- 三 収納米蔵縮依頼書 河野久太郎一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿南町中神茂兵衛)

三 蔵宿中神茂兵衛判印鑑書 弘化3・8 切紙 1

三 収納米蔵縮依頼書 河野久太郎一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿大橋屋与三郎) 嘉永元・5 一紙 1

三 収納米蔵縮依頼書 河野久太郎一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿大野屋市兵衛) 嘉永4・5 一紙 1

三 蔵宿大野屋市兵衛判印鑑書 嘉永4・6 切紙 1

三 収納米蔵宿預之義二付届 嘉永4・10 一紙 1

三 河野久太郎一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿大野屋市兵衛) 安政6・8 一紙 1

三 収納米蔵縮依頼書 河野弥平次一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿 前同) 慶応4・6 一紙 1

三 収納米蔵縮依頼書 河野弥平次一町会所、(裏書) 町会所(蔵宿繩屋文右衛門) 不 正・17 切続紙 1

三 蔵宿有松屋吉兵衛書状(蔵敷 米二付) 有松屋吉兵衛一河野久太郎 寅・11 一紙 1

三 御米搗家御用二付申上書 中村屋太兵衛一河野久太郎 子・12・14 切紙 1

三 松木買請書 木屋仁左衛門一河野 明治2・12 切紙 1

三 米預り状 繩屋文右衛門一河野弥平次 蔵宿吟味方伊右衛門 不・正・20 切続紙 1

三 年賀書状 有賀弥助内四十宮行蔵淳行一加州金沢河野三郎左衛門 不・正 折紙 1

三 古賀弥助門人土屋七郎民監一河野三郎左衛門

○九五・一六 交際

- 三 清次郎一件等二付書狀 不・3・10 切続紙 1 六 年賀書狀 紺屋文左衛門―河野久太郎 不・正・15 切紙 1
- 四 音信書狀 政行―意通(三郎左衛門) 不・5・13 切続紙 1 七 年賀書狀 米屋七兵衛―河野久太郎様御内、御近習様 不・正・吉 切紙 1
- 五 学問之励行方書狀 長右膳―河野三郎左衛門(享和期、江戸へ宛てたものか) 不・5・13 折紙 1 八 年賀書狀 衆徒中―河野久太郎 不・正・吉 切紙 1
- 六 御供方安否等二付書狀 (長)連郷―河野意通(三郎左衛門) 不・6・23 切続紙 1 九 年賀書狀 小沢屋清九郎―河野久太郎・同 文太郎・三木善兵衛・河野義三郎 不・正・吉 切紙 1
- 七 贈物礼書狀 長連郷―河野丈(三郎左衛門) 不・6・14 切紙 1 一〇 示談之義二付通知書狀 前(田)主馬―河野(久太郎)先生 不・正・16 切紙 1
- 八 無事参着二付礼書狀 茶屋忠蔵―河野三郎左衛門 不・□・23 折紙 1 一一 参勤交代之節善光寺一件等二付書狀 付書狀 不・5・8 切続紙 1
- 九 御供道中音信書狀 高橋喜助―(河野)三郎左衛門 不・8・15 切紙 1 一二 暑中見舞書狀 山本三右衛門―河野久太郎 不・6・26 切紙 1
- 一〇 山中入湯道中音信書狀 河野三郎左衛門―河野久太郎 不・9・13 切続紙 1 一三 暑中見舞并茅堂靈像之義二付書狀 小沢屋清九郎―以下右同 不・7・15 切続紙 1
- 一一 大聖寺家臣同姓河野家と通路 杉野左助―河野三郎左衛門 不・9・14 切続紙 1 一四 河野喜平次通徳・河野次郎左衛門通遠・河野丈右衛門通政―河野弥次之義二付書狀 河野喜平次通徳・河野次郎左衛門通遠・河野丈右衛門通政―河野弥次 平・河野栄三郎・河野震太郎・河野誠太郎 不・8・16 切続紙 1
- 一二 杉野左助―河野三郎左衛門 杉野左助―河野三郎左衛門 (文政2)正・3 折紙 1 一五 能登旅中音信書狀(前欠) 河野義三郎・河野久太郎―御尊父・御尊母 不・8・16 切続紙 1
- 一三 三年始祝詞狀 本多三郎右衛門理明―河野久太郎 折紙 1 一六 久太郎・義三郎来訪二付礼書 状 不・仲秋・念2 切紙 1
- 一四 寒中見舞狀 河野久間之助通徳・河野覚之進通久・河野次郎左衛門通遠・河野丈右衛門通故―河野義三郎・河野文太郎・河野誠太郎 橋本照―河野 不・12・4 折紙 1
- 一五 寒氣見舞書狀 水口屋義兵衛―(河野)三郎左衛門 不・11・23 折紙 1 一七 寒中見舞書狀 大沼理左衛門―河野久太郎、(紙背)元文四年より異国船漂着等之覚 不・9・16 切続紙 1
- 一六 年賀書狀 美濃屋九左衛門―河(野)久太郎 不・正・2 切紙 1 一八 滞留之節之礼狀 河野俊之佐―河(野)文太郎 不・9・16 切続紙 1

○九五・一 河野家 ○九五・一六 交際 ○九五・一七 家督・縁組 ○九五・一八 遺言 ○九五・一九 葬儀・墓所 一四

番号 標 題 年 代 形態 墨付 点数

元 書籍返納并元祖墓所二付書状 不・10・2 切統紙 1

河野覚之進通久―河野文太郎

元 河野文太郎家督相統祝状 不・10・10 切統紙 1

河野久間之助通徳・河野覚之進通久・河野次郎左衛門通遠・河野丈右衛門通故―河野久太郎

三 贈物礼書状 不・10・18 切統紙 1

河野丈右衛門―河野文太郎・河野義三郎

三 鈴木春山子靈前御酒料二付礼 弘化4・9・25 切統紙 1

鈴木(後室)―河野久太郎

九 河野三郎左衛門縁組願 天明6(10)朔 統紙 1

御用番大原十郎左衛門―小林平左衛門

二 河野藤兵衛隠居并せがれ左太 宝暦元・12・2 切紙 1

○九五・一七 家督・縁組

一 河野藤兵衛養子願聞届状 元文元・9・20 切紙 1

河野三郎左衛門―山田七郎太夫(奥書)山田七郎太夫―神保貞右衛門、小林平左衛門、(裏書)四月十七日神保貞右衛門

三 河野藤兵衛隠居二付河野左太 宝暦元・12・2 切紙 1

河野三郎左衛門娘縁組願 (享和2)12・26 統紙 1

四 河野藤兵衛薙髮并改名願聞届 宝暦元・12・10 切紙 1

河野三郎左衛門―小原才記(奥書)小原才記―神保貞右衛門、小林平左衛門、長八郎左衛門、(裏書)十二月二十九日神保貞右衛門

五 河野左太夫せがれ三郎左衛門 子・9・28 統紙 1

長八郎左衛門―小林紋太夫

三 河野三郎左衛門嫡子久太郎縁 (文政3)11・27 統紙 1

河野三郎左衛門―小林平左衛門、小原才記、小林平六郎、(奥書)小林縁組願

二 河野久太郎義角入袖下留申付 文化3・11・19 切紙 1

河野久太郎

一 河野三郎左衛門先妻娘後妻養 (寛政5)4・14 統紙 1

長新丞、神保貞右衛門、(裏書)十一月十日長吉郎太夫

七 河野藤兵衛隠居并せがれ三郎 天明5・7・6 切紙 1

河野左太夫―小林平左衛門、(奥書)小林平左衛門―三嶋平馬、長吉郎太夫、長助曹、(裏書)十一月七日長吉郎太夫

八 河野藤兵衛隠居二付河野三郎 天明5・7・6 切紙 1

左衛門家督相統申付状

河野三郎左衛門

平左衛門—小原才記、小林平六郎、(裏書)十二月八日小原才記
四 河野三郎左衛門隱居并久太郎 文政11・12・22 切紙 1
家督相続申付状
—河野三郎左衛門、同久太郎

五 河野久太郎嫡子文太郎縁組願 (天保15)12・朔 統紙 1
河野久太郎—小林紋太夫、大原十郎左衛門、(裏書)小林紋太夫—此木
左太夫、大原十郎左衛門、(裏書)十二月二十五日大原十郎左衛門

六 河野文太郎家督相続二付役義 嘉永4・9・28 切紙 1
等申付状
—河野文太郎

七 河野文太郎二男忠次郎養子指 巳・正・16 統紙 1
遺願
河野文太郎—小林紋太夫、大原小左衛門、小林平左衛門、山本三右衛
門、此木治部、神保貞右衛門、(裏書)小林紋太夫—大原小左衛門、小
林平左衛門、山本三右衛門、此木治部、神保貞右衛門、(裏書)三月二
日小林平左衛門

八 河野正通隱居願聞届書 明治5・7・20 切紙 1
石川県—河野正通

九 河野秀通義家督下賜書 明治5・7・20 切紙 1
石川県—河野秀通

○九五・一八 遺書

一 河野武左衛門遺書 元禄7・正・16 一紙 1
河野武左衛門—堀内又兵衛

二 河野武左衛門遺書之留 元禄8・正・16 一紙 1
河野武左衛門—堀内又兵衛

三 河野武左衛門遺書 元禄9・正・16 一紙 1

河野武左衛門—堀内又兵衛
四 河野三郎左衛門遺書 寛政13・2 統紙 3
河野三郎左衛門—小原才記

五 河野三郎左衛門遺書 享和2・2 統紙 1
河野三郎左衛門—小原才記

六 河野三郎左衛門遺書 文化4・3 統紙 1
河野三郎左衛門—小原才記

七 河野三郎左衛門遺書 文化13・8 統紙 1
河野三郎左衛門—小林平左衛門、長八郎左衛門、小原才記、小林平六
郎、高柳皆右衛門

八 河野三郎左衛門遺書 文政3・9 統紙 1
河野三郎左衛門—小林平左衛門、此木左太夫、長五兵衛

九 河野久太郎遺書 弘化2・3 統紙 2
河野久太郎—小林紋太夫、大原十郎左衛門

二 河野久太郎遺書 嘉永4・6 一紙 1
河野久太郎—小林紋太夫、大原小左衛門、小林平六郎、長八郎左衛門

二 河野文太郎遺書 安政3・10 統紙 1
河野文太郎—小林紋太夫、大原小左衛門、小林平左衛門、山本三右衛
門、此木治部、神保貞右衛門

三 河野文太郎遺書 安政4・⑤ 統紙 2
河野文太郎—小林紋太夫、大原小左衛門、小林平左衛門、山本三右衛
門、此木治部、神保貞右衛門

○九五・一九 葬儀・墓所

一 河野肥前君館跡墓松之碑并河野藤兵衛君之墓碑 文政3 袋綴 7丁
河野意通

番号	標	題	年	代	形態	墨付 点数
二	河野藤兵衛君之墓碑	七代孫河野意通	文政3		野紙	1
三	河野肥前君館跡墓松之碑并河野藤兵衛君之墓碑		不		切統紙	1
四	河野肥前君館跡墓松之碑并河野藤兵衛君之墓碑文二篇	河野意通	不		袋綴	9丁
五	河野藤兵衛君墓碑	七世孫加州長岡縣尉史河野意通	文政4・8・3		一枚	1
六	河野藤兵衛君之墓碑	六世孫河野意通	文政4		野紙	1
七	河野肥前君并河野藤兵衛君碑文	七世孫加州長岡縣尉史河野意通	文政4・8・143		統紙	1
八	河野肥前君碑文		文政4・9・14		切紙	1
九	河野三郎左衛門先祖石塔建立ニ付以後之世話方依頼状	河野三郎左衛門 加州大聖寺町領肝煎府中屋重右衛門	文政4・11・朔		切統紙	1
二	先祖石塔建立ニ付世話依頼状 ヒナ形	加州大聖寺、大聖寺町領肝煎府中屋重右衛門	文政4		切紙	1
二	河野藤兵衛君之墓碑ヒナ形	河野意通	文政4		切紙	3
三	河野藤兵衛石塔建ニ付届書	官永弥高・寺田左守	不		切紙	2
三	塚築料・世話料等算用書		不		切紙	1

75-9

75-8

四	塚地絵図		不		切紙	1
五	銀子受取書	府中屋重右衛門 河野	(文政6) 6・26		切紙	1
六	礼金受取ニ付書状	府中屋重右衛門 河野	不・11		切紙	1
七	日用銀受取書	府中屋十右衛門 河野	(文政12) 丑3		切紙	1
八	御世話料受取書	府中屋十右衛門 河野	(文政12) 丑7・14		切紙	1
九	惜斉様 (河野三郎左衛門) 御死去雜記		文政13・9		袋綴	14丁
二	河野義三郎同久太郎弔状	淡水 (河野久太郎)	不		切紙	1
三	瑞光院 (河野久太郎母) 死去一件	河野義三郎、河野久太郎 河野文右衛門	天保10・11		袋綴	40丁
三	智清院 (河野久太郎妻) 病死一件		嘉永2・7・26		袋綴	37丁
三	淡水様 (河野久太郎) 御死去雜記	青龍 (河野文太郎)	嘉永4・6		袋綴	54丁
四	御墓出来ニ付案内方書状	河野覺之進通久 河野文太郎	嘉永6・8・2		切統紙	1
五	永光寺等参詣ニ付書状	河野義三郎 河野	不・8・17		切紙	1
六	所口龍門寺施我鬼供養等ニ付書状	河野義三郎 河野	不・8・20		切統紙	1

75-9

- 三 大聖寺より石塔之義ニ付書状 不・9・8 切統紙 1
- 河野義三郎・河野久太郎―御尊父・御尊母
- 元 元祖御墓所之義ニ付書状 不・10・10 切統紙 1
- 柿沢忠太夫・関谷久丞―河(野)久太郎・河(野)義三郎
- 元 慈峰院(河野文太郎妻)病死 文久3・10・6 袋綴 33丁
- 一件
- 三 河野家先祖形代書 切統紙 4
- 三 大坂陣之節河野氏家来形代書 切紙 1
- 三 永代吊料指上ニ付回向願書 一紙 1

番号 標 題 年 代 形態 墨付 点數

〇九五・二 武芸 〇九五・二〇 武家故実 〇九五・二一 兵法 〇九五・二二 刀術・居合術 一八

九 武羅制法之伝 天保7・3・8 折本 1

八 山鹿流兵法相伝目錄 天保7・3・8 折紙 1

七 介錯之大事 文政8・11・22 折紙 1

六 帰陳之式・帰陳之酌 天明3・6 折紙 2

五 小笠原一流素礼之大事 天明5・3・朔 卷子 1

四 小笠原一流銚子提包形口伝之 天明5・3・朔 卷子 1

三 当家小笠原一流礼法之内中通 天明5・3・朔 卷子 1

二 小笠原一流太刀請取渡相当之 天明5・3・朔 卷子 1

一 小笠原一流九段之礼 天明5・3・朔 卷子 1

〇九五・二 武芸

〇九五・二〇 武家故実

- 一 小笠原一流九段之礼 天明5・3・朔 卷子 1
安永六年正月二七日青地喜善孝恭―小泉与太夫生宣―河野三郎左衛門
- 二 小笠原一流太刀請取渡相当之 天明5・3・朔 卷子 1
次第 安永六年正月二七日青地喜善孝恭―小泉与太夫生宣―河野三郎左衛門
- 三 当家小笠原一流礼法之内中通 天明5・3・朔 卷子 1
状 安永六年正月二七日青地喜善孝恭―小泉与太夫生宣―河野三郎左衛門
- 四 小笠原一流銚子提包形口伝之 天明5・3・朔 卷子 1
書 安永六年十二月二七日青地喜善孝恭―小泉与太夫生宣―河野三郎左衛門
- 五 小笠原一流素礼之大事 天明5・3・朔 卷子 1
門 安永六年正月二七日青地喜善孝恭―小泉与太夫生宣―河野三郎左衛門
- 六 帰陳之式・帰陳之酌 天明3・6 折紙 2
安永七年十二月二五日青地喜善孝恭―小泉与太夫生宣―河野三郎左衛門
- 七 介錯之大事 文政8・11・22 折紙 1
水野幸左衛門映貞―河野久太郎
- 八 御軍令員太鼓旗令袋采幣秘伝 天保7・3・8 折本 1
河野義三郎文通―河野久太郎

二 軍配之伝

寛永元年五月日早川伝来、小幡勘兵衛景憲子、北條新藤氏長子、山鹿甚五左衛門素行子、河内山与五右衛門徐行子、横井伴右衛門不休子、石黒丈右衛門知足翁、石黒丈右衛門序水翁、田屋恒右衛門由正斎、田屋将曹一由斎、吉田甚左衛門方兼―河野義三郎文通―河野久太郎

〇九五・二一 兵法

- 一 山鹿流兵法之次第 文政13・9・吉 切紙 1
吉田甚左衛門方兼―河野久太郎
- 二 兵法奥儀 天保7・3・8 折本 1
河野文通―河野久太郎
- 三 大星二乗伝義 天保7・3・8 横帳 6丁
河野義三郎文通―河野久太郎
- 四 兵法無上極意旨趣(大星止善 天保7・3・8 折紙 2
微妙之大事、至妙伝兵学蘊奥)
河野文通―河野久太郎
- 五 兵法奥儀伝授無上極意(大星 天保7・3・8 折紙 1
止善微妙之大事)
河野文通―河野久太郎
- 六 兵法奥儀 天保7・3・8 折本 1
河野文通―河野久太郎
- 七 山鹿流兵法相伝目錄 天保7・3・8 折紙 1
河野義三郎文通―河野久太郎
- 八 山本勘介晴幸伝法大星二乗之 天保7・3・8 折本 1
大事

山本道鬼、馬場信房、早川幸豊、小畑景憲、北條氏長、山鹿素行、河内山徐行、横井不休、石黒知足、同序水、田屋允秀、田屋精秀、吉田方兼——河野義三郎文通——河野久太郎

九 幸時万倍時取之法 天保7・3・吉 折本 1

河野義三郎文通——河野久太郎

二 当流日取之大事 天保7・3・吉 折本 1

河野義三郎文通——河野久太郎

二 二十八宿之伝 天保7・3・吉 折本 1

河野義三郎文通——河野久太郎

三 別伝五性之事 天保7・3・吉 折本 1

河野義三郎文通——河野久太郎

三 山鹿流伝法目録 嘉永3・2・朔 折紙 1

河野義三郎文通——河野文太郎

四 明鏡巻聞書 不 折本 1

五 水かがみ 茂辰 卷子 1

茂辰

〇九五・二二 刀術・居合術

《刀術》

一 神明兵法伝書 寛文6・5・吉 卷子 1

神留雲照、神留数馬——福武七右衛門

二 神明兵法伝書 不 卷子 1

神明武蔵守玄信、神留雲照利辰、神留数馬利重——福武七右衛門——河野左太夫

左太夫

三 折榑太刀四方払 寛保3・11・24 卷子 2

山森武太夫源近陣——河野左太夫

四 鹿嶋大明神信影流目録 寛保3・11 切紙 1

山森武太夫源近陣——河野左太夫

五 神之信影流誓紙 延享元(2) 続紙 1

延享元年六月十一日六嶋弥六良・河野嘉忠太、同元年八月二六日渡辺忠左衛門、同元年九月三日橋爪源之進、同二年三月二五年藤田佐仲太

上泉伊勢守秀繩、張谷五郎右衛門尉信勝、高田源左衛門尉能種、山森喜兵衛尉俊清——山森武太夫源近陣——河野左太夫

六 神信影流初之巻 延享元・11・18 卷子 1

喜兵衛尉俊清——山森武太夫源近陣——河野左太夫

七 鹿嶋大明神信影流中之巻 延享元・11・18 卷子 1

(前同) 山森武太夫源近陣——河野左太夫

八 神信影流天狗書、下之巻 延享元・11・28 卷子 1

(前同) 山森武太夫源近陣——河野左太夫

九 神信影流太刀指南ニ付連判誓 延享2・正・21 切紙 1

長多門・長津五郎・長采男——河野左太夫

二 神之信影流印可状(新景兵法 延享3・正・吉 卷子 1

問答他) 山森武太夫源近陣——河野左太夫

二 神之信影流印可状(エンヒハ 延享3・正・吉 卷子 1

ソウノ勝ノ事他) 山森武太夫源近陣——河野左太夫

三 神之信影流印可状(小革刀仕 延享3・正・吉 卷子 1

形師伝ノ事ノ他) 山森武太夫源近陣——河野左太夫

三 神之信影流印可状(九加九本 延享3・正・吉 卷子 1

ノ太刀仕形師伝ノ事他) 山森武太夫源近陣——河野左太夫

〇九五・二 武芸 〇九五・二二 刀術・居合術 〇九五・二三 鎗術・棒術

番号 標 題 年 代 形態 墨付 点数

四 中條流神影中太刀伝授二付連 宝曆7~11 続紙 1 判天罰起証文

渡辺忠左衛門、木村六郎太夫、木村次太夫、四井藤太左衛門、神保八郎右衛門、天野甚七、阿岸右仲、富倉守衛、橋爪茂平、三嶋忠太夫、土肥与三五郎、堅田弥三丞、杉村五右衛門、金子清藏、石黒弥次衛門、
□田七助、関与四郎、千田弥三郎、高橋丈五郎、堀内弥四郎、小川三郎右衛門、宇留地富之助、木村左内、土肥鉄次郎、舟木□兵衛、高橋吉郎右衛門、黒川勝十郎、竹村波間、森忠次郎

五 神明兵法印可・目錄 宝曆8 長帳 2

神明武藏守玄信、神宮雲照利辰、神宮教馬利重、高見七左衛門、河野左太夫

六 手数之次第目錄 不 切紙 1

七 一刀流兵法目錄 明治28・7・良辰 卷子 1

井藤一刀斎景久、小野次郎右衛門尉忠明、井藤典膳正忠世、古谷次郎左衛門尉信知、生田惠兵衛尉正映、吉田太左衛門尉透延、吉田弥五衛門尉豊貞、吉田弥五衛門尉豊膳、吉田助右衛門尉豊紹、酒井要人信文、成瀬藤十郎因任、秦楨太郎秀穂、野村政行(神勢館)一河野通雄

《居合術》

八 居合伝書(居合腰廻目錄、居 享保17・11・吉 卷子 4

合腰廻伝授許状、師伝之詞伝 書、歌卷)

磯山四郎左衛門尉・浅賀弥左衛門尉流、山岸市郎右衛門尉長定、福嶋甚五兵衛尉直副、喜多岡豊右衛門尉勝興、安田源五太夫連年一高橋隼之助

九 磯山浅賀流居合腰廻伝授二付 享保18~延享2 続紙 1

天罰起証文前書之事

山本次郎左衛門永承、大窪甚六、山脇全左衛門近長、不破安左衛門

三〇 磯山浅賀流居合腰廻伝授二付 延享3~安永3 続紙 1 天罰起証文前書之事

高橋弥太夫、坂井弥四良、関八郎次、平清丞、小原万兵衛、三嶋伝太夫、土肥与三太夫、河嶋庄太夫、桑原弥三右衛門、柴野相馬、木村軍兵衛、渡辺忠左衛門、武部嘉藏、杉村善太夫、原次郎太夫、芦沢米六、大原左源太、舟木甚五郎、長吉郎太夫、石黒貞右衛門、佐藤弥五郎、御田伊太夫、中西藏人、藤田作之進、黒川順藏、岡田藤太夫、中村貞次右衛門、小川岸右衛門、徳田理左衛門、奥村弥太夫、隠岐塔太夫、八田宇兵衛、野崎宅進、古嶋弥六郎、寺田和太夫、橋爪源之進、加藤三太夫、飯田権左衛門、森助太夫、見本伊左衛門、菅田甚五兵衛、加藤久左衛門、青地儀平太、片岡兵左衛門、大野勝左衛門、穴穂喜内、松波市兵衛、水田弥助、三木次郎兵衛、岩門千左衛門、杉部磯進、松沢左衛門

中村平太夫、佐々仲之助、岩村和兵衛、長崎多次郎、四柳宗右衛門、長三左衛門、長多門、神保与兵衛、柘清太夫、中西源五左衛門、木嶋太次右衛門、合田源吾、関三太夫、阿岸右仲、富倉守衛、中田逸角、宇留地富之助、小川三郎右衛門、四柳弥右衛門、石黒弥次右衛門、毛利半太夫、堀内弥四郎、土肥与三五郎、関与四郎、高弥三郎、平庄五郎、高橋丈五郎、土田天助、高橋五七郎、嶋沢軍左衛門、中西便、渡辺小八郎、星名儀次助、三嶋□二郎、藤田市太、横田藤下、大原直記、坂上津左衛門、小原与市郎

三 居合腰廻目錄 文久2・11・27 卷子 1

磯山四郎左衛門尉、浅賀弥左衛門尉、山岸市郎右衛門尉、喜多岡豊右衛門尉、齊藤金兵衛尉、白江金十郎、富嶋御藏直昌、河野震太郎

三 居合腰廻伝授許状 文久2・11・27 卷子 1

(前同) 富嶋御藏直昌、河野震太郎

三 居合腰廻稽古歌卷 文久2・11・27 卷子 1

(前同) 富嶋御藏直昌、河野震太郎

三 居合腰廻伝詞之序 文久2・11・27 卷子 1

(前同) 富嶋徇藏直昌—河野震太郎

○九五・二三 鎗術・棒術

《鎗術》

一 鎗術歌卷

天明7・2・27 卷子 1

大嶋雲平吉綱、大嶋弥左衛門吉次、林十左衛門重政、高本勝左衛門知久、嶋沢藤左衛門改元、嶋沢義左衛門政偏||六嶋弥六郎可忠—河野三郎左衛門

二 当流直鎗初学卷

天明7・2・27 卷子 1

六嶋弥六郎可忠—河野三郎左衛門(前同)

三 当流直鎗新明鏡卷

天明7・2・27 卷子 1

六嶋弥六郎可忠—河野三郎左衛門(前同)

四 外物之卷

天明7・2・27 卷子 1

六嶋弥六郎可忠—河野三郎左衛門(前同)

五 法度之卷

天明7・2・27 卷子 1

六嶋弥六郎可忠—河野三郎左衛門(前同)

《棒術》

六 神岡流棒術免状

文化10・12・朔 折紙 1

門川孫三郎直行、水野幸左衛門照貞—河野久太郎

○九五・二四 柔術・護身法・馬術・武具

《柔術・護身法》

一 護身法伝授書(兵法九字之大 寛保3・12・2 切紙 4

事、兵法十字之大事、四箇之

印、護身法)

真福密院権大僧都覚遍法印—河野通明

河野文庫目録

二 護身法伝授書(九字之大事、文化6・12・吉 折紙 3

兵法十字法、護身法大事)

門川孫三郎直行—河野久太郎

三 踏返当名伝授書 文化8・12・吉 折紙 1

門川孫三郎直行—河野久太郎

四 無拍子流伝授許状 文政3・2・25 折紙 1

門川孫三郎直行、水野幸左衛門映貞—河野久太郎

《馬術》

五 梧卷第拾一平馬咒三段之次第 天文22・12・吉 卷子 1

桑嶋新右衛門尉仲綱

六 金菊先生乘馬馬療之二書伝授 天保15・11・23 切続紙 1

交名書

河野久太郎、(伝授希望者交名)山本三右衛門、長十郎右衛門、坂井

太郎右衛門、長右衛門、三島統、大橋作之進

七 聞記 不 横帳 5

《武具》

八 山崎氏切鏡刀記写 正徳2・4・12 一紙 1

室直清(鳩巢)

九 ①武具等留 弘化2・3 袋綴 24丁

河野正通

②金府住兼久御刀目形之事 酉正月吉日 切紙 1

白弥三次—河野

③刀修覆覚 明治3 一紙 1

④刀身図 不 一紙 1

⑤刀身図 不 一紙 1

○九五・二 武芸 ○九五・二五 火箭・鉄砲 ○九五・二六 西洋砲術

○九五・二五 火箭・鉄砲

《火箭》

番号 標 題 年 代 形態

墨付
点数

一 河鳴流火箭再興被仰付一件二 天保10・9・6 切紙

1

二 大朋火箭二入道具書上 不 切紙

1

三 塩消製法等相伝書 慶長17 折紙

1

津坂瀬兵衛

四 拾晴流序巻 慶長18・3・吉 卷子

1

津坂瀬兵衛||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

五 中工集(巻一~五) 慶長18・3・吉 卷子

5

津坂瀬兵衛尉||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

六 遠正集(巻一~五) 慶長18・3・吉 卷子

5

津坂瀬兵衛尉||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

七 極秘口伝之巻 慶長18・3・吉 卷子

1

津坂瀬兵衛||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

八 町堅之巻 慶長18・3・吉 卷子

1

津坂瀬兵衛尉||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

九 櫓返之巻 慶長18・3・吉 卷子

1

津坂瀬兵衛尉||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二〇 町薬之方巻 慶長18・3・吉 卷子

1

津坂瀬兵衛||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二一 老久八分薬之事(桁薬方巻) 慶長18・3・吉 卷子

1

津坂瀬兵衛||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二三 野中之鉄炮巻 慶長18・3・吉 卷子

1

津坂瀬兵衛||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二三 神戸流小筒次第 慶長18・3・吉 小本 12丁

津坂瀬兵衛||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二四 遠明近集 慶長18・3・吉 卷子 1

津坂瀬兵衛尉||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二五 大小手かがみの事 慶長18・8・吉 小本 1

津坂瀬兵衛尉||山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二六 中川当流鉄炮免状 慶長18・9・朔 卷子 1

山本次右衛門尉家正|河野三郎左衛門尉

二七 鉄炮書巻数之覚 不 卷子 1

二八 小筒矢倉切之事等目錄覚 不 一紙 1

二九 鉄炮秘尽 不 袋綴 20丁

三〇 高矢倉之事 不 切紙 1

三一 鉄砲之書等綴 不 長帳 6丁

三二 鉄砲之薬之日記 不 長帳 3丁

「口薬之事」天正十二年三月吉日 坪井七兵衛景広|桜井吾郎兵衛

○九五・二六 西洋砲術

三三 天保三辰年阿蘭陀持渡青銅砲 不 一枚、1

モルチール筒正寸法画図

(河野)義通

三四 天保六未年阿蘭陀持渡青銅銃 不 一枚 1

ホウ井ツスル筒正寸法画図

三五 天保十二年五月九日於武蔵国 不 卷子 1

徳丸原高島四郎太夫西洋火砲

打方御見分之図

彩色 1

④ 天保十三年渡米和蘭船仕掛有 不 一枚 1
 之船中カノーン正台図(四枚
 之内)

T5-10
 五 シュントル製造札等ニ付書状 (弘化元) 11・4 切続紙 1
 岡田條之佐一河(野)久太郎

六 上田喜作への金子落手ニ付書状 (弘化4) 12・28 切続紙 1
 岡田條之佐一河(野)久太郎、河(野)義三郎、(河野)文太郎

七 年頭祝詞并金子上田氏届ニ付 (嘉永元) 正・2 折紙 1
 書状 岡田條之佐一河(野)久太郎、河(野)義三郎、河(野)文太郎

八 小備指掌等ニ付書状 (嘉永4) 5・8 切続紙 1
 岡田條之佐一河(野)久太郎

九 上田喜作・藤井三郎へ御状届 不 7・4 切続紙 1
 ニ付書状 右同

一〇 シュントルスへイヒロント致 不 8・19 切続紙 1
 着ニ付書状 右同

二 上田喜作・藤井三郎御状ニ付 不 8・29 切続紙 1
 書状 右同

三 上田喜作宛金子入紙面ニ付書 不 10・9 切続紙 1
 状 右同

三 兵学に関する図説集 弘化2、安政2他 折本 14
 ①海砲書之図 ②行軍図 ③海上砲全書図 ④金湯要録図式 ⑤銃之
 操法等之図 ⑥垂見他爾列里乙之図(弘化二年八月二日、右図自鈴
 木春山先生借写 淡水) ⑦古代甲冑全装図等 ⑧船砲新篇図 ⑨銃

之分解図 ⑩ゲウエール之図 ⑪西洋軍馬裝束之図 ⑫銃砲分解図
 ⑬船砲新編之図 ⑭大砲運転全書図(安政二年八月、河野正通)

二二 バンヨネット銃出来方等ニ付 弘化2・11・22 切続紙 1
 書状 村上定平一河野久太郎

二五 高島流火術御誓詞等之義ニ付 弘化3・3・30 切続紙 1
 書状 村上定平一河野久太郎

二六 バンヨネット銃出来方遅延之 (弘化3) 12・16 切続紙 1
 義等ニ付書状 右同

二七 西洋砲調達等ニ付書状 弘化4・9・24 切続紙 1
 右同

二八 弘化二々四年伊予西条等より 弘化4 切続紙 1
 申来之大砲試打覚 (村上定平)一

二九 砲術書名目録等覚 弘化4 切続紙 1
 村上定平一河野久太郎

三〇 大砲試打覚 弘化4 切続紙 1
 村上(定平)一(河野)久太郎

T5-11
 三 略曆、ホウキツスル雛形図受 嘉永元・4・29 切続紙 1
 取ニ付書状 村上定平一河野久太郎

三 大砲鑄立祝并御恵投金ニ付書 嘉永元・5・16 切紙 1
 状 村上周助一河野久太郎

三 大砲鑄造祝礼等ニ付書状 嘉永元・8・26 切続紙 1
 右同

番号	標	題	年	代	形態	墨付 点数
----	---	---	---	---	----	----------

四	河野門下皆伝免状ニ付書状并 高島流奥儀誓詞ヒナ形		嘉永2	④・12	切統紙	2
---	-----------------------------	--	-----	------	-----	---

右同

三	秒測器并稽古打ニ付書状				不	6・7
---	-------------	--	--	--	---	-----

村上定平―河野文太郎

六	斉藤三九郎御状ニ付書状				不	6・7
---	-------------	--	--	--	---	-----

右同

七	銃陣關係書物等ニ付書状				不	11・14
---	-------------	--	--	--	---	-------

村上定平―河野久太郎

六	高島流砲術初段・中段伝授書				不	
---	---------------	--	--	--	---	--

村上定平

元	高島流砲術伝来書、奥儀免状、 皆伝許状				不	
---	------------------------	--	--	--	---	--

村上定平範致

三	西洋砲術相伝仕ニ付報書				弘化3	⑤
---	-------------	--	--	--	-----	---

河野久太郎―各様

三	西洋砲術相伝仕ニ付報書				弘化3	⑤
---	-------------	--	--	--	-----	---

河野久太郎―各様

三	西洋砲術相伝仕ニ付報書				弘化3	⑤
---	-------------	--	--	--	-----	---

次郎 回

三	西洋砲術相伝仕ニ付報書				弘化3	⑤
---	-------------	--	--	--	-----	---

河野久太郎―各様

山本三右衛門道矩、此木孫之丞連雄、三木善兵衛政教、田向権太郎義武、山田六郎左衛門連真、河野義三郎文通、山本与五郎道正、河野文太郎正通、片岡多次馬光嘉、小原吉兵衛知真、杉野勝左衛門政寛、三引和十郎政繼、大原鑛太郎買照、此木小次郎連潔、長八郎左衛門連成、阿岸加兵衛連徳、寺田勤之助三近、田中清作重致、小原嘉門知実、加藤織人安定、合田作丞寛郷、三島音吉元親

三	西洋砲術相伝仕ニ付報書				弘化3	⑤	統紙	1
---	-------------	--	--	--	-----	---	----	---

河野久太郎―各様

野本七郎左衛門定礼、佐藤三木之進亮直、野崎

信次郎則恒、田伏作二郎義行、西出源蔵長久、河野覚之進通久、河野

久間之助通徳、河野俊之佐秀□(嘉永3、安政3)

三	ヤンチヘンチイ之義御断書状				弘化3	6・10	切紙	1
---	---------------	--	--	--	-----	------	----	---

上田喜作―河野久太郎

三	ヘレトンスコル差上等ニ付書状				弘化3	9・10	切統紙	1
---	----------------	--	--	--	-----	------	-----	---

右同

三	三宅様御屋敷より之紙面添状				弘化4	7・29	切紙	1
---	---------------	--	--	--	-----	------	----	---

上田喜作―河野久太郎

三	ペレトンスコル図面御用ニ付書状				弘化4	8・27	切統紙	1
---	-----------------	--	--	--	-----	------	-----	---

右同

三	行軍図代金落手之義等書状				弘化4	10・18	切統紙	1
---	--------------	--	--	--	-----	-------	-----	---

右同

三	パタイロンスコル写本之義等ニ付書状				弘化4	11・14	切統紙	1
---	-------------------	--	--	--	-----	-------	-----	---

右同

三	パラポール御術路拝見等ニ付書状				嘉永元	9・15	切紙	1
---	-----------------	--	--	--	-----	------	----	---

右同

三	書翰之返状				不	11・20	切紙	1
---	-------	--	--	--	---	-------	----	---

右同

三	高島流砲術初段伝授目録				弘化3	8・吉	卷子	1
---	-------------	--	--	--	-----	-----	----	---

右同

三	大砲御用留				弘化3	嘉永元	袋綴	128丁
---	-------	--	--	--	-----	-----	----	------

河野久太郎

十二貫目玉筒鑄造銘記 一枚 1

弘化三年十月十七日鑄造、同四年七月二十五日様之

大筒試打ニ付申送状 (弘化4) 7・12 切紙 1

前田近江守一長將之佐

ホーキッスルモルチール井野 (弘化4) 10・24 切続紙 1

戦筒御鑄立ニ付書状

船砲新編送付ニ付書状 弘化4・11・19 切続紙 1

藤井方朔一河(野)久太郎

西洋軍砲受入之義ニ付申上状 (嘉永元) 6 切続紙 1

河野久太郎一

高島流砲術中段伝授目録 嘉永元・7・吉 卷子 1

村上定平範致一河野久太郎

砲術稽古ニ付覚并同断簡 (嘉永2) ④・16 切紙 3

西洋砲高島流御国ニ弘度義等 (嘉永2) ④ 切続紙 1

之書状

河野久太郎一

西洋砲術ニ付申聞之留并火業 嘉永2・正④ 切続紙 5

稽古交名書

高島流奥儀誓詞 嘉永2・6・11 一紙 1

河野久太郎通義一村上定平

高島流砲術伝来卷(高島流砲術奥儀免状、高島流砲術皆伝許状) 嘉永2・6・吉 卷子 1

嘉永3・11・吉

高島流開基高島四郎大夫源茂致一村上定平源範致一河野久太郎

西洋砲術ニ付御尋之趣申上條 7

条々并系表

①御尋之趣申上候条々 嘉永3・11・21 袋綴 27丁

長大隅守自分仕与力河野久太郎一前田主馬・水原清五郎・坂井忠左衛門・

大村肴次郎・丹羽權佐・金谷多門・河合清左衛門・木村權三郎

②葛農系表 ③煩砲系表 ④ 一枚 6

彈子系表 ⑤模爾底兒系表

⑥喀羅那迭系表 ⑦訶鳥微都兒系表

煩鉄書之義等ニ付書状 (嘉永4) 3・13 切続紙 1

河辺磯吉一河野久太郎

砲術發揮之義等ニ付書状 (嘉永4) 4・29 切続紙 1

右同

高島流奥儀誓紙 嘉永4・6・11 一紙 1

野本七郎左衛門定礼・佐藤三木之進亮直一河野久太郎

萩野流大砲仮留帳 嘉永四年十一月一六年二月 袋綴 2

○嘉永六年二月一安政二年十二月(備後守様御内御用留)

○嘉永六年二月一安政二年十二月(備後守様御内御用留) 河野青龍(文太郎) 卷子 1

煩鉄全書絵図(附渡来磁石等) 嘉永4 卷子 1

魯依届鑄鉄煩局刊、石彫版写、(箱書) 嘉永四年絵図出来、安政二年表具同、同四年箱同、所持河野文太郎

①鎔鋸炉 ②鉄製迦噉沙型模匣 ③鉄彈白噉沙型模匣 ④長大的造型直幹

⑤鎔金炉二個合并 ⑥錐具之鉛直截徑 ⑦同 ⑧載三噉錐台 ⑨具格魯斯諸錐刀

⑩火門錐盤及換脩 ⑪用于鉄煩諸般器械 ⑫彈之造型方 ⑬彈之探索器

煩鉄全書絵図并庫状噉場之図式 一枚 11

①鎔鋸炉 ②長大的造型直幹 ③鎔金炉二個合并 ④具格魯斯諸錐刀

⑤火門錐盤及換脩 ⑥用于鉄煩諸般器械 ⑦彈之造型方 ⑧彈之探索器 ⑨⑩庫状噉場之図式

西洋兵学書籍貸借案内状 (嘉永5) ②・18 切続紙 1

河野覺之進通久一河野文太郎

河野文庫目錄

〇九五・二 武芸 〇九五・二六 西洋砲術

番号 標 題 年 代 形態 墨付点数

三 火矢并火業稽古方御尋之趣書 (嘉永5) 7・18 切統紙 1
四 大砲出来并砲術書拝借之義等 嘉永5・11・朔 切統紙 1
書状

空 一貫玉試射之義等二付書状 嘉永6・3・4 切統紙 1
右同

突 砲術新篇返納之義等二付書状 不・12 切統紙 1
右同

空 高島流奥儀誓詞下書 嘉永6・6 切紙 1
河野久太郎通義一村上定平

突 砲術相伝二付誓詞 (嘉永6) 7・17 統紙 1
木村鉄之助、片岡三千太郎、四柳太郎吉、下村平之丞、里見恒之丞、
久田庄蔵、岡本市助、四井喜十郎、野治儀兵衛、柴田唐馬、嶋村与市、
石寺清吉郎、中嶋□、金子清太夫一河野文太郎、(回達) 坂井誘太郎、
浅川雄蔵、金子順吉、藤田千之助、石寺清次郎

突 西洋流砲術相伝二付誓詞 嘉永6・7・23 統紙 1

大嶋村之佑、林太蔵、下村半蔵、市井三太郎、杉本左門、坂上鈴十郎、
伊藤丹右衛門、高橋増五郎、森丈太夫、佐野□之助、高橋義門、天野
吉重郎、水上□蔵、中村縫殿右衛門一河野文太郎、(回達) 河合直右衛
門、吉本喜八郎、浅田吉太夫

吉 砲術新篇写書之件二付書状 (嘉永7) 5・11 切統紙 1
河野覚之進通久一河野文太郎

三 高嶋流奥儀誓詞 安政3・4・29 一紙 1
河野覚之進通久一河野文太郎

三 壯猶館稽古方留 安政3・5 袋綴 22丁
青龍河野正通

三 西洋砲術相伝仕二付報書 安政3 統紙 1

四 高島流砲術初段、中段伝授書 万延元・正・吉 卷子 1
村上定平範致、河野久太郎通義一野本七郎左衛門定礼一河野弥次平(初
段伝授は安政元年正月吉日)

三 高島流砲術相伝卷(高島流砲 元治元・正・吉 卷子 1
術奥儀免状、高島流砲術皆伝
許状)

共 中玉之事、舶来地金之事等二 不 3・19 切統紙 1
付書状
高島流開基高島四郎大夫源茂致、村上定平源範致、河野久太郎通義一野
本七郎左衛門定礼一河野弥次平

七 江戸より帰着之様子二付書状 不 5・29 切統紙 1
右同
早川理兵衛一淡水先生(久太郎)

共 道具借用、浜稽古等之義二付 不 ④・14 切統紙 1
書状
小塚一平一河野久太郎

共 大聖寺藩大砲稽古打順書 不 切統紙 1
西五月十一日

合 西洋軍用馬術叢説之義等二付 不 12・9 切統紙 1
書状
山本三右衛門一河野久太郎

二 徳丸原砲術稽古等之義二付書 不 6・27 切統紙 1
状
河辺貫一河野文太郎

三 西洋書物売申義二付願状 不 7・22 切統紙 1
岡田條之佐一河野久太郎

參	參殿之節行軍圖御覽ニ入候義等書狀	不	9・朔	切続紙	1
參	バタイロン并ヘロトンスコール圖ニ付書狀	不	9・7	切紙	1
參	上田喜作―河野久太郎				
全	セーアルチルレー并船砲新篇御写料請取之義等ニ付書狀	不	9・9	切続紙	1
六	大橋作之進―河(野)久太郎				
六	稽古始御祝申度義ニ付書狀	不	端月14	切紙	1
六	岡野左輔―河野久太郎				
七	土壘・砂壘実験之義ニ付申上書	不		切紙	1
六	―河野久太郎				
六	誓狀提出方并日本流火矢等試射ニ付書狀	不		切続紙	1
六	山本三右衛門、河野久太郎―大坂平野町二丁目米屋長兵衛				
六	ミリタレイ書請取之義等ニ付書狀	不		切続紙	1
六	ボードホウースル原圖	不		一枚	1
六	荻野流二百目玉筒切形之圖	不		一枚	1
六	高嶋西洋流伝法雜記	不		横帳	58丁
六	稽古令十首歌	不		一紙	1
六	短施條砲台車軸等圖	不		一枚	2
六	各種砲壘圖	不		卷子	1
六	(河野)通義				
六	西洋砲大形野戰筒之圖	不		一枚	6

- ①大型野戰筒正面圖
- ②同穀正面圖
- ③同台左側正面圖
- ④同正寸圖
- ⑤同台右側正面圖
- ⑥同台半輪正面圖

河野文庫目錄

六	ハウキッスル台之圖	不		一枚	4
六	ハウキッスル台正面正寸圖				
六	④同ヒモカケ				
六	モルチール台正真寸法圖	不		一枚	2
六	阿蘭陀船備石火矢正圖鉄鑄砲	不		一枚	1
六	西洋劔付筒真圖	不		一枚	2

○九五・三 学芸 〇九五・三〇 学芸一般 〇九五・三一 天文・測量

番号 標 題 年 代 形態 墨付 点数

〇九五・三 学芸

〇九五・三〇 学芸一般

- 一 習坎六三之事等伝書 寛永5・5・吉 切続紙 1
- 二 周易之本卦 寛永5 魁真如意珠日 堅紙 1
- 三 大正持御陣覚書 貞享2・8 中旬写 袋綴 13丁
- 四 祇載之号由来書 明和5・首夏日 切紙 1
- 五 奉祇載先生書 不 6 6 一紙 2
- 六 三木尚綱先生遺言書 不 切紙 1
- 七 歐陽文忠公作日本刀歌 寛政13 切紙 1
- 八 明石元碩手録後書 文化4・6 堅紙 1
- 九 大島先生讀書 文政2・2・18 切紙 1
- 二〇 維貞学識讀書 不 8・晦 切紙 1
- 二 朱子学規述纂二付伺書 不 6・22 切紙 1

- 三 声読二付疑問伺書 河野意通一維楨先生 辛亥春 2 一紙 1
- 三 教化之不明二付伺書 河野意通一維貞 不 8・22 一紙 1
- 二 答書賜二付朱子之本意等述書 不 切続紙 1
- 二 河野意通七十寿祝之節野詩二章 不 切紙 1
- 六 入木道伝授書(短冊之書例、懷紙之書法、集書之書格、扇子之書式) 河野意通 文化6・4 続紙 1
- 七 響通目伝書(事未発之法他) 仲一元完 文政元・8 折紙 1
- 八 延喜式陰陽寮開閉諸門鼓図 宮崎貳宜一河野通義 天保5・7・13 一枚 1
- 九 志操論義考按 淡水河野通義 天保7・3・8 折紙 1
- 三〇 近思録存養篇考 河野文通一河野久太郎 不 切続紙 1
- 三〇 琉球使節一件 天保13・11 切続紙 1
- 三〇 琉球使節名列 (天保13) 切続紙 1
- 三〇 於西丸浦添御礼之次第 (天保13) 11・19 切続紙 1
- 三〇 徳川家蔵充軍資鑄造金之図 天保13・11 一枚 1
- 三〇 大坂夏の陣図 河野淡水(通義)写、原本は徳川家康が最上義光に下賜したもの。寛政十一年小俊七郎写、文化元年源保吉再写、文化二年再々写の写 天保14・3 写 一軸 1
- 三三 三島統君兜ヲ造ルノ説 政十一年小俊七郎写、文化元年源保吉再写、文化二年再々写の写 嘉永4・8・26 一紙 1

三 加陽年代記 不 一枚
 六 三ヶ国古城跡並所地由来 不 袋綴 23丁
 元 浅井繩手職記 不 袋綴 6丁

三 花道伝書(後欠) 不 一卷 1
 三 入棺之儀仕方書 不 袋綴 2丁

三 大沢ナメ瀧之図 不 彩色一枚 1
 三 金沢江戸間里程表 不 一枚 1

三 繪旨告文入箱之図 不 一枚 1
 三 徳川家御系略 不 一枚 1

三 開化天皇四月祝詞 不 一紙 2
 三 神々名書(前後欠) 不 続紙 3
 三 嫁入道具目録 不 切紙 1

三 列藩一覽 明治6・6 横帳 103丁

御用御書物所、東京日本橋須原屋茂兵衛版

○九五・三一 天文・測量

一 測晷牌 文化11 一枚 2

二 検地方一卷算法并測量之法 文化11・仲春写 横帳 22丁

三 五星運行之義尋等二付書状 文化14・8・14 切続紙 1

河野文庫目録

本多三郎右衛門一河野久太郎

四 天象之図二付書状 (文化14) 9・4 切続紙 1

河野久太郎一本(多)三郎右衛門

五 天象之図等二付書状 文化14・10・4 切続紙 1

本多三郎右衛門一河野久太郎

六 天象之図注解書等二付書状 文化15・2・8 切続紙 1

右同

七 村井家々臣日下理兵衛二付書状 文政2・7・4 切続紙 1

右同

八 精要解算并日下理兵衛之義二付書状 文政3・正・14 切続紙 1

右同

九 正弧三角矩合往来二付書状 文政3・7・4 切続紙 1

本多三郎右衛門一河野三郎左衛門一河野久太郎

一〇 目耳録 算数之類 文化15 袋綴 46丁

遠藤教馬一河野久太郎

一一 御用二付呼立状 (文政5) ⑩・13 切紙 1

遠藤教馬一河野久太郎

一二 御次御内用之御絵図御用二付 (文政5) ⑩ 切紙 1

口達書

一三 御用呼立二付返答状 (文政5) ⑩・13 切紙 1

(河野久太郎一遠藤教馬)

一四 分間御絵図御次御内用留帳 文政5 ⑩・13 袋綴 4

河野久太郎

一五 文政八年尾星実測覚(附、天保四年日食実測) 不 袋綴 16丁

文政八年尾星実測附図

一六 文政八年尾星実測附図 不 一枚 11

文政八年尾星実測附図

二九

○九五・三 学芸 ○九五・三一 天文・測量 ○九五・三二 医術

番号 標 題 年 代 形態 墨付 点数

①文化四年秋尾星出 ②文化四年・八年星出 ③文化八年秋尾星出 ④文政六年・八年星出 ⑤同上 ⑥文政八年秋彗星出以恒星之座図其行轍 ⑦同上 ⑧同上 ⑨天保六年星出 ⑩天保六年星出 ⑪天保六年星出(寺西秀周実測)

七 磁石方位盤保管方口達書 (天保2)10 切続紙 1

小川三郎右衛門・承り人山本三右衛門・橋爪勘兵衛・中村市右衛門一河野久太郎

六 磁石方位盤保管方口達ニ付答 (天保2)10 切紙 1

河野久太郎一小川三郎右衛門・山本三右衛門・橋爪勘兵衛・中村市右衛門

五 磁石方位盤受取書 天保2・10 一紙 1

河野久太郎(前同)

四 天保十四年彗星出現図記(附不 袋綴 16丁

図三枚、天保十四年彗星説集(記共)

三 沢田義門製作之星鏡ニ付書状 天保14・9 切続紙 1

河野久太郎一江間篁斎・黒川玄良

三 黒川良安入用ナチュールキユ (弘化3)6・8 切続紙 1

ンデスコールブック等ニ付書状

藤井三郎一河野久太郎

三 ヒュールウエルキユ図等ニ付書 (弘化3)7・23 切続紙 1

状

右同

二 ペレトンスコール等ニ付書状 (弘化3)9・4 切続紙 1

右同

三 ペレトンスコール等之義ニ付 (弘化3)9・9 切続紙 1

書状

右同

三 ペレトンスコール差上之義ニ (弘化3)9・14 切紙 1

付書状

右同

三 藤井三郎義天文方就ニ付書状 (弘化3)12・25 折紙 1

藤井三郎實一河野久太郎

三 藤井三郎天文方退身之義等ニ (弘化3)12・29 切続紙 1

付書状

藤井三郎一河野久太郎

三 坤輿図儀等ニ付書状 (弘化4)正・9 切続紙 1

右同

三 ペレトンスコール写出来ニ付 (弘化4)正・24 切続紙 1

書状

右同

三 江川公島廻り等ニ付書状 (弘化4)2・14 切続紙 1

右同

三 舶砲新編差上之義ニ付書状 (弘化4)11・12 切続紙 1

右同

三 舶砲新編筆耕料之礼等ニ付書 (嘉永元)正・9 切紙 1

状

右同

三 年頭祝詞状 不 正・2 折紙 1

右同

三 頭微鏡拝借中玉粉ニ付申状 不・④・15 切続紙 1

小塚一平・米林貢・白江弥平次一

㊦	坤輿図指越ニ付礼状	不・7・18	切続紙	1
	早川理兵衛―淡水(河野久太郎)先生			
㊧	江戸天文台足立左内より遠鏡 之義尋ニ付書状	不・正・8	切続紙	1
	国友藤兵衛―河野久太郎			
㊨	テレスコップ之義ニ付書状	不・4・20	切続紙	1
	右同			
㊩	七月十八日大風雨之様子ニ付 書状	不・7・22	切続紙	1
	国友藤兵衛―山本三右衛門・河野久太郎・日下理兵衛・伊藤左太夫			
	早川理兵衛・三角風藏			
㊪	垂球ニ而火矢玉速力測定ニ付書 状	不・7・22	切続紙	1
	国友藤兵衛―河野久太郎			
㊫	近況報告并鋌弾等之義ニ付書 状	不・11・朔	切続紙	1
	国友藤兵衛―御一統中様			
㊬	藤兵衛親死亡等ニ付書状	不・11・6	切続紙	1
	国友藤兵衛―山本三右衛門・河野久太郎			
㊭	名物考補遺等之儀ニ付書状	不・正・27	切続紙	1
	足立重太郎―河野久太郎			
㊮	根付時計之義ニ付書状	不・5・4	切紙	1
	(前田)式部―(河野)久太郎			
㊯	成瀬主税方集会ニ付書状	不・7・23	切紙	1
	右同			
㊰	彗星之件ニ付申付書	不・6・8	切紙	1
	淡水(河野久太郎)―青龍子(河野文太郎)			
㊱	五星之曆元等ニ付問合書	不・10・朔	切続紙	1

河野文庫目録

㊲	ソノカラス・硝子等之義ニ付 書状	不・10・18	切続紙	1
	河野久太郎―			
	近藤作右衛門―河(野)久太郎			

㊳	尾星拔萃	不	袋綴	2
㊴	天体測量図解	不	一卷	1
	測地半径、量游気差、測地半径差、求太陽距地心、求水金距太陽、求 火水土距太陽			

㊵	季節ノ盤	不	一枚	1
㊶	雷説	不	袋綴	2丁
㊷	町図算書	不	一枚	1
㊸	間敷縮尺覚	不	一紙	1
㊹	算書	不	一紙	1

○九五・三二 医術

㊺	五観動脈之事	天正15・5・吉	卷子	1
	桑嶋左近亮宗重―鈴木輝丸			
㊻	二七ヶ乃寒熱之事	天正15・5・吉	卷子	1
	桑嶋左近亮宗重―鈴木輝丸			
㊼	懺悔卷(中・下)	天正15・6・吉	卷子	2
	桑嶋左近亮宗重―鈴木輝丸			
㊽	仲国秘伝集(上卷一〜八)	天正15・6・吉	卷子	8
	桑嶋左近亮宗重―鈴木輝丸			
㊾	仲国惣量	天正15・6・吉	卷子	1
	桑嶋左近亮宗重―			
㊿	金伝集(上・下卷)	天正15・6・吉	卷子	2

番号 標 題 年 代 形態

墨付
点数

七	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	血脉八道之事	天正15・6・吉	卷子	1
八	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	血方之五ヶ條	天正15・6・吉	卷子	1
九	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	五病平薬之卷	天正15・6・吉	卷子	1
〇	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	損病之卷	天正15・6・吉	卷子	1
二	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	悪血有所を知血を可取次第	天正15・6・吉	卷子	1
三	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	平薬之卷	天正15・6・吉	卷子	1
三	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	本灌頂卷	天正15・霜・吉	卷子	10
四	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	仲国秘伝集(下卷一〜八)	天正15・霜・吉	卷子	8
五	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	金益集(下卷)	天正15・11・吉	卷子	1
六	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	五蔵之寒熱并陰陽ヲ知事	天正15・霜・吉	卷子	1
七	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	脉薬相当相尅之事	天正15・霜・吉	卷子	1
八	桑嶋左近亮宗重—鈴木智丸	医伝書	天正15・霜・吉	卷子	1

相卷(一、五、七、十、十二) 天正19・8・吉 卷子 11

桑嶋左近亮宗重—鈴木左平次

三 驥伝集(上卷) 天正19・8・吉 卷子 1

桑嶋左近亮宗重—鈴木左平次

三 十八ヶ條合作(一〜三卷) (天正19) 8・吉 卷子 3

桑嶋左近亮宗重—鈴木左平次

三 医伝書 文禄元・2・吉 卷子 1

十八番に同

三 官鵠無~~辨~~流鍼伝許之書 慶長20・3・吉 切続紙 1

山本隼人助主膳—石寺四郎左衛門

三 官鵠無~~辨~~流伝書 慶長20・3・吉 卷子 1

山本隼人—石寺四郎左衛門

三 官鵠之極意書 不 切続紙 1

三 官鵠無~~辨~~流伝書 不 切続紙 1

三 許極意之事 不 切続紙 1

三 氣付之大事等伝書(紙背文書) 不 切続紙 1

〇九五・三三 絵圖

一 官腰町絵圖(六五×一二六) 文化4 一枚 2

題箋「地方圖」、中山成美藏、河野家々紋有

二 鞍ヶ嶽大池之図(二四×四六) 文化9・仲夏朔日 一枚 1

三 石川郡松任城跡圖(二四×三六) 文化13・3写 一枚 1

河野通義写、「我友深見懐之十四・五年以前写藏家、予亦写之藏家」

四 能州道中略圖 文化13 卷子 3

彩色

- ①能州道中図 乾巻 自津幡外通至三崎之図(二四×九三三)
- ②能州道中図 坤巻 自三崎内通至今浜之図(二四×九七八)
- ③自所口至和倉・田鶴浜之図(二四×一七三)

「文化十三年季冬、草創之未加潤色、能州道中路図三巻、外図八枚、河野通義家蔵」

- 五 鷹巢山城跡之図(二四×三五) 文化14・5・21写 一枚 1

河野礪卵写、「此図奥村助右衛門棟御家臣山本純夫管所写之図之也、吾亦写蔵家」

- 六 能州末森山城跡之図(四〇×七) 文化14・9・16写 一枚 1

河野印有

- 七 越後屋舖繪図(一九×四二) 文政元 一枚 1

- 八 鷹巢山城跡之図(四七×六九) 文政4・3 一枚 1

河野通義写

- 九 飛州高山之図 文政8・正写 折本 7

- ①高山城請取行列図(二六×六二五) 折本 1

「此絵図高山城請取元禄六年のよし委しき事ハ不相知」

- ②飛驒高山ヨリ各方位里程図(五一×七七) 一枚 1

- ③飛驒高山城下図(五四×六四) 一枚 1

- ④飛驒高山城図(三九×五七) 一枚 1

- ⑤飛驒高山城本丸屋形平面図(五四×七六) 一枚 1

- ⑥飛驒高山城二ノ丸屋舖平面図(五四×七六) 一枚 1

- ⑦飛驒高山城庭樹院殿屋形平面図(四六×五二) 一枚 1

二 江戸御用留附属絵図

- ①御屋舖御式台前之図(五四×七八) 彩色 一枚 1

御時宜役河野久太郎

- ②江戸御城図(三八×五四) 文政10・正写 彩色 一枚 1

淡水河野通義写

- ③自辰ノ口至御玄関之図(五二×二七) 不 彩色 一枚 1

河野久太郎

- ④公边御玄関前之図(三六×二四) 不 彩色 一枚 1

- ⑤皆子餅御献上之図(四〇×四四) 不 一枚 1

- ⑥御中屋敷之図(二四×三五) 不 一枚 1

- ⑦御下屋敷之図(三〇×四〇) 不 一枚 1

- ⑧平川御広式之図(三〇×六〇) 不 彩色 一枚 1

- ⑨深川御倉所之図(二九×二〇) 不 一枚 1

- 未森合戦図(三六×五二) (文政11) 彩色 一枚 1

- ③ 長家御屋敷并御家中之図 天保2・10 3

③

河野文太郎写、「竹沢御殿御用部屋見習河野文太郎八才尔而写之」
地奉行藤田佐一左衛門・岡部屯、地図御用河野久太郎、定杖河崎七郎
兵衛、野杖河上清次郎、御大工野村善太郎

〇九五・三 学芸 〇九五・三三 絵図

番号 標 題 年 代 形態 墨付
点数

- ① 揚場御家中・新屋敷御家中
之図 (五〇×七一) 一枚 彩色 1
- ② 北之御家中之図 (五二×四八) 一枚 彩色 1
- ③ 御屋敷井上御家中暨毛受之図 (七二×一〇五) 一枚 彩色 1

三 長家御上屋敷并御家中御絵図
図籍并図引用具

測量方指図并図籍記者・算用絵図法等惣而指図方等河野久太郎通義、
測量中図籍記者并二算用方絵図等見届藤田佐一左衛門則寛、測量中図籍
記者并二算用方絵図等見届岡部屯忠弘、測量中間敷等之校合并算用等河
崎七郎兵衛、測量中鍵曳并二間繩役等河上清次郎、測量中方位等測量井
間竿役絵図等野村善太郎

- ① 長家上屋敷等草図 (首) 帳冊 彩色 5葉 (天保3)
- ② 御上屋敷廻并御門内御沙庭 袋綴 彩色 24丁 (天保3) ⑩
- ③ 上御家中暨毛受北ノ御家中・ 袋綴 彩色 36丁 (天保3)
- 揚場御家中・新屋敷御家中
- ④ 地圖製法等 袋綴 25丁 (天保3)
- ⑤ 象限儀 (則澄作) 真鍮製 2
- ⑥ 分度器 (則澄作) 真鍮製 1
- ⑦ 尺度 真鍮製 1

T5-14

⑧ 測遠器 真鍮製 1

- ④ 高岡之絵図 (八六×七九) 彩色 1 天保6・3写
- ⑤ 富山城下図 (七九×九八) 彩色 1 天保6・3写
- ⑥ 射水郡十七ヶ用水ノ内庄方江 彩色 1 天保6・4
- 筋高岡片原町筋等堀替場所絵 彩色 1
- ⑦ 圖 (七三×一一八) 彩色 1
- ⑦ 婦負郡并新川郡之内村々組分 彩色 1 天保9・5
- 絵図 (八〇×三一〇) 彩色 1
- 高木 (藤右衛門) 製
- ⑧ 射水郡分間絵図 (六九×九八) 彩色 1 天保10・3
- ⑨ 羽喰鹿島口郡一町五厘略絵図 彩色 1 天保10・8
- (六〇×八八)
- ⑩ 能美郡組分絵図 (八四×一一七) 彩色 1 (天保期)
- (河野) 通義印
- ⑪ 鳳至珠洲奥郡一町五厘略絵図 彩色 1 (天保期)
- (六〇×九〇)
- ⑫ 鳳至珠洲両郡絵図 (八四×一八 彩色 1 (天保期)
- 八)
- ⑬ 小松城并城下図 (三四×六四) 彩色 1 天保15
- ⑭ 加州大聖寺古城之図 (九七×一 彩色 1 弘化2・3写
- 〇〇)
- ⑮ 加州大聖寺古城之図 (五二×七 彩色 1 弘化2・3写
- 三)
- ⑯ 青龍 (河野正通) 写、文化三年丙寅二月写之
- ⑰ 青龍 (河野正通) 写、享和四年正月望宮候師之図ヲカリテ假写斯、市

T5-14	⑤	蝦夷地方図(六五×二二六)	橋成	弘化4・8写	一枚	1
		淡水(河野通義)写、「文政二歳次巳卯五月為大庵主人摹写、弘化四丁未年八月淡水写蔵」				
T5-14	⑦	金沢城下図(七八×一一〇)	水舟河野氏、袋番「我居る町」	万延2・正	一枚	1
		金沢城下図(二八七×一八三)	内容年代(天明〜寛政期)		一枚	1
	⑤	小松御城図(七二×七二)	通義印		一枚	1
T5-14	③	小松絵図(四二×七〇)	通義印		一枚	1
	③	所口町絵図(七一×六八)	河野家々紋		一枚	1
	③	能登島絵図(七〇×六八)	「明治三年三月朔日下賜、榮」		一枚	1
	③	和倉図(三一×四二)	和倉八勝		一幅	1
T5-14	⑤	加賀山中温泉図(三八×三二〇)	通義印、○加州山中温泉之図、○国分山境内之図、○温泉総湯湯周辺宿屋之図(二枚)、○総湯浴槽之図、○おろぎ橋等之図(二枚)		一幅	1
T5-14	⑤	六水古城(岩立城・白藤城)図(三六×一四〇)			一枚	1
	⑤	未森地方略絵図(五九×六八)			一枚	1
	③	松波城跡絵図(六〇×六二)			一枚	2
	③	能州赤蔵山之図(六二×二一九)	昭和十年、境内図、小柳記、騰写版図貼		一枚	1
	⑤	能州総持寺図(七五×九〇)			一幅	1
	④	松波松岡寺境内図(五六×五四)			一枚	1
	④	前田家本郷屋敷略図(五五×七九)			一枚	1
	④	前田家本郷屋敷之図(七四×一一三)			一枚	1
T5-14	④	屋敷見取図			一枚	1
T5-14	④	行列図(一九×四八五)	河野久太郎蔵		卷子	1
	④	行列図(一九×三二〇)	河野久太郎蔵		卷子	1
	④	日本周辺図(五五×七九)	演貞所持		一枚	1
	④	日本全図			一枚	2
		①東日本図(一〇五×一六〇)、②西日本図(一三三×二二八)				

○九五・三 学芸 ○九五・三三 絵図 ○九五・四 参考品

番号 標 題 年 代 形態 墨付
点数

T5-14

- ④ 京都絵図(八七×一〇〇) 不 一枚 木版彩色 1
- ④ 京都大内裏図(七四×五五) 不 一枚 木版彩色 1
- ④ 蝦夷地方図(九〇×一〇五) 不 一枚 彩色 1

○九五・四 参考品

- 一 弧線定規(木製) 不
 - 二 算木 不
 - 三 算盤 不
 - 四 筮竹 文政8
 - 河野通義の署名人
 - 宮崎十五左衛門時宣作
 - 五 皮バンド(家紋バックル) 不
 - 六 纏雛形(木製) 不
 - 七 金属片 不
- (○九六・三三一―三に測量の「図引用具」あり)

解題

〔河野家文書の分類〕

河野家文書は二期に分割して当館に寄贈されており、本目録以前に前期寄贈分の目録が作成されていたが、今期の寄贈に際し目録の再編による二期分の史料の合一を図った。前期分については当館独自の目録規則による十進分類の方法がとられ、○、総記附郷土志料 一、宗教・哲学・教育 二、法律・政治 三、経済・社会 四、産業・交通・通信 五、理学・医学・衛生 六、工学・兵事 七、芸術・諸技・運動 八、文学・語学 九、歴史・地理となっていた。

この分類方法によると、主題から大きく郷土志料と郷土志料外に区分され、郷土において生活し郷土を基盤として作成・収集されてきた河野家文書は、大方が郷土志料に分類されるところとなり（当館所蔵の他の文庫についても同様なことが言える）、少数の郷土志料外とされた資料は残りの九分類の中に配分されるが、大部分を占める郷土志料はひとつの項目の中に細分類されることなく置かれることとなり、分類されながらも中心となる史料部分の分類が不十分なものとなっている。これは文庫自体が郷土資料であるにも関わらず一般資料と同様の分類方法をとったことよって派生したものである。

以上から今回は一般図書の種類にこだわることなく、文書の存在のあり方を生かすべく考慮した分類を心掛け、前期・今期の史料を合一し、目次に示した分類と項目を立てた。

〔河野家文書の参考文献と研究史〕

河野家文書については、昭和初年に郷土史家の氏家栄太郎氏が調査を行い、昭和5年「河野久太郎氏遺書調査顛末書」（当館所蔵氏家文庫）、

および「隠レタル偉人河野久太郎氏」（郷土史叢稿）付録第10冊）を著し、昭和15年には「幕末の新人河野久太郎氏」（汲古雜録）を発表している。氏家氏の著作の主体となったのは河野家歴代中の河野久太郎である。河野久太郎について記したものの中で、最も早いものとしては藩士小川清太による「小川清太見聞録」中の「長家ノ名士」があり、昭和12年には田中鉄吉が「郷土数学」の中で「河野久太郎」の一項を設け紹介している。続いて昭和15年に刊行された「石川県史」第3巻にも取り上げられ、周知の郷土人となっている。

その後、河野久太郎の業績のひとつである砲術の面から岩崎鐵志氏が、昭和45年「高島流砲術伝播の研究―村上定平の研究―」（静岡女子短期大学研究紀要第16号）、昭和49年「高島流砲術伝播の研究―金沢藩陪臣河野久太郎宛書簡―」（同上 第20号）と題して、河野家文書中の河野久太郎関係書簡の翻刻・紹介がなされている。

さらに、昭和59年には「高島流砲術の伝播と展開」（幕末の洋学）中山茂編）の中で「河野久太郎の実践」の項を設け、加賀藩の西洋砲術導入過程での河野久太郎の位置付けなどが論考された。

この他、直接に河野家および久太郎に視点を置いたものではないが、昭和43年に片桐一男・津田進三氏が河野文庫中の河野久太郎宛の書状から、「藤井三郎の書翰」（日本英学史研究会研究報告第99号）を翻刻・紹介しており、昭和62年には長山直治氏が、同じく河野文庫より河野久太郎と本多利明の往復書簡を「加賀藩における海保青陵と本多利明」（石川県立金沢錦丘高等学校「紀要」第15号）として発表している。

市町村史では「志賀町史」第五巻沿革編の、第三章第三節に「河野肥前と末吉城」の項が設けられ、周辺史料として、新湊市の「高樹文庫」に河野久太郎（12通）・同義三郎（6通）より石黒信由宛の書翰が残され（平成二年「高樹文庫目録（古文書）」）、穴水町の歴史民俗資料館には河野家の主家である長家の文書が寄託されている。

[河野文庫歴代并分類別分布表]

分類	項目	肥前守 ~1577	土佐守 ~1583	藤兵衛 ~1600	三郎左 ~1627	藤兵衛 ~1684	武左衛 ~1699	団之祐 ~1759	左太夫 ~1788	三郎左 ~1830	久太郎 ~1851	文太郎 ~1889	震太郎 ~1925	年不詳	点数計	件数
095.0	支配	0	1	1	2	13	6	1	0	13	18	8	0	34	97	72
095.00	支配一般		1			11	2			2		1		5	22	16
095.01	前田家				2	2	1							3	8	8
095.02	長家						2	1		8	2	7		19	39	35
095.03	長家々中			1			1			3	16			7	28	13
095.1	河野家	0	1	4	1	38	3	11	23	113	63	55	0	29	341	292
095.10	家一般								1	2	3	19		5	30	10
095.11	由緒			1				2	3	10	1	2		11	30	21
095.12	知行		1	3	1	4		3	2	5	3	4		1	27	26
095.13	役職					3			6	36	15	7		1	68	67
095.14	勤仕					24			6	3	10	3		3	49	42
095.15	家計					7		2		11	8	4		1	33	32
095.16	交際									12	12	6		1	31	31
095.17	家督縁組							4	5	5	1	4			19	19
095.18	遺書						3			7	3	3			16	12
095.19	葬儀墓所									22	7	3		6	38	32
095.2	武芸	1	0	22	0	1	0	13	26	8	123	25	1	42	262	188
095.20	武家故実								7	1	3				11	10
095.21	兵法									1	13			2	16	15
095.22	刀術等					1		8	14			4	1	1	29	24
095.23	槍術等								5	1					6	6
095.24	柔術等	1						5		5	2	1		8	22	10
095.25	火箭鉄砲			22							1			7	30	22
095.26	西洋砲術										104	20		24	148	101
095.3	学芸	0	0	59	2	2	1	0	1	78	70	11	1	35	260	164
095.30	一般					2	1		1	12	9	2		16	43	39
095.31	天文測量									38	27			5	70	48
095.32	医術			59	2									4	65	28
095.33	絵図									28	34	9	1	10	82	49
合計		1	2	86	5	54	10	25	50	212	274	99	2	140	960	716

解題

- 史料分布を歴代の生年にあてはめ、どの代にどのような分類が分布するかを見た。没年で各代を区切ったため、必ずしも歴代個人と史料は一致しない。
- 写本は、作成年の判るものは作成年に置き、不明のものは年不詳の項に配した。
- 年不詳史料でも差出者や受取者から時期が判明するものについては該当の代に配した。
- 数年に渡る史料の場合は下限年を基準として配した。

〔河野文庫の概要〕

河野文庫は前頁の表のとおり、七一六件・九六〇点(参考品を除く)からなる。

年代的には、八代左太夫より十一代文太郎の代を中心とする西洋砲術、天文・測量、絵図が三十二%を占め、これらが河野文書の特徴ともなっている。

この他、三代藤兵衛代の鉄砲、医術史料、および河野家の主家である長家の鹿島半郡支配の様子を窺うことのできる五代藤兵衛代の勤仕関係史料がある。

分類は、大きく河野家に直接的に関わるものと、間接的に関わるものとに分けることができ、間接的なものが「支配」の項に置いたもので、畠山氏・藩主前田家・主家長家・長家々中などに関わる史料である。直接的なものとして、河野家の歴史・家政・家事などを含む「河野家」、家政にも関連する河野家の「武芸」・「学芸」の項を立てた。

〔河野家〕の項は数量の上で河野文庫の根幹となるものであり、「武芸」・「学芸」の項は河野文庫の特徴となるものである。

〔河野家の系譜〕

河野家の出自は、伊予の豪族越智氏に続く伊予国主河野氏の末孫であるとし、「御本家者、予州河野四郎童名若松丸通信公、元祖ヨリ四十五世者当家始祖ノ父也。始祖ノ母者新居太夫玉氏御女也」(「河野家年中行事」として)いる。伊予河野氏と能登河野氏を結びつける材料は乏しいが、貞応二年(一二二二)河野九郎通久を伊予国石井郷の地頭に補任するという北条義時の「施行状」の写し、伊予河野氏の系譜を記した「予章記」・「河野家記」などが残されている。(以上〇九五・一一の項参照)

同家が能登へ移った経緯は定かではないが、能登に入る前には越前

府中に在したことが知れ(同前史料)、藩政期の史料では天正五年(一五七七)に羽咋郡堀松城において上杉軍との戦いに戦死した河野肥前守を初代としている。堀松城は末吉城・笹山城ともいい、「御本丸ト唱来り候地面東にし四十間・南北三十二間、東並七十間・横八間程、此所二井戸アリ深サ八尺斗、常ニ水不絶、東並ノ方二馬場ト見得長七十間・巾四間」(「志賀町史」穴口区有文書)、「羽咋軍堀松村後に古城有。是は畠山義統の家臣河野肥前在城也。天正五年九月七尾城没落す。……河野肥前堀松にて討死す」(能登志徴)とある。

この河野肥前守に先だつて、畠山家々臣中に河野藤兵衛統秀の名が見え、統秀は堀松郷を領し、末吉城(堀末城)をその城砦としていたといわれ(「戦国大名家臣団辞典」東四柳史明「畠山氏家臣人名辞典」)、天文十三年(一五四四)遊佐統光と温井紹春の抗争に際し羽咋郡一宮で戦死している(「加能古文書」栗棘庵文書)。年代的に見てこの統秀は能登河野氏の初代とされる河野肥前守の先代にあたると思われ、天文十七年(一五四八)にも畠山義統の臣として名がみられる(「加能古文書」総持寺文書)。

河野統秀・河野肥前守と畠山家に臣従していたが、畠山家の滅亡に伴い河野土佐守の代より、同じく畠山家の臣であった長家に仕へたものと思われ。これをもって河野家の新たな歴史が始まる。二代土佐守は長連龍より天正八年(一五八〇)に召し出され、長連龍はこの年に織田信長より鹿島半郡五十九村三万石余を与えられており、土佐守も鹿島郡古郷村(現七尾市古府)の内に三千疋の知行を受けた。のち土佐守は天正十一年(一五八三)の賤ヶ岳の戦いに戦死し、三代藤兵衛は文禄二年(一五五九)鹿島郡豊田などに三百俵の知行を受け、慶長五年(一六〇〇)関が原の戦いにおける大聖寺(山口氏)攻めに戦死している。

四代三郎左衛門の代には長家の領地である鹿島半郡の支配・運営に郡奉行として携わり、田地管理・年貢徴収に関する長連龍よりの指令

書状が残っている。長家領鹿島半郡の支配は寛文八年（一六六八）に終わるのであるが、その契機となった浦野事件の関係者である加藤采女・阿岸掃部・十村役道閑・同池島などの名が、河野木工助および河野三郎左衛門宛の長連龍の書状の中にも見られる。また三郎左衛門は



堀松城（末吉城）跡 遠景
（西部 於古川より望む）

中川当流の鉄砲術の免許皆伝者として武術にも秀でていた。

武術については、八代左太夫が神信影流の刀術者として、九代三郎左衛門が当流直槍の使い手であったことが知られる。この三郎左衛門は文政三・四年（一八二〇・二一）初代肥前守の墓碑を戦死地である羽咋郡堀松（現志賀町堀松）の館跡に、藤兵衛の墓碑を戦死地大聖寺に建てることに奔走した。毎年正月朔日の堀松神社（河津南神社）拝礼、六月の堀松村宗泉寺と大聖寺墓番への水向料は家の年中行事となっていた。現在、この墓碑および肥前守の墓と伝えられる侍塚を確認することはできない。

十代久太郎は砲術・天文・蘭学・剣術・槍術など文武に秀で、藩史にその名を残している。久太郎については次項を参照されたい。十一代文太郎も父久太郎の影響下にあつて、砲術および兵学を嗜み、剣術を南保虎之助、槍術を島沢儀左衛門、居合を寺田庄左衛門、柔術水野幸左衛門、火術を三木善兵衛、馬術を金子定之丞に師事していた。また十二代震太郎も居合術など武芸に長け、これらの武術伝承は、河野家の正月行事として、朔日に船砲新篇総旨の口伝および剣術の形、居合の口伝を、二日には手銃木銃二部二教の口伝が執り行ない、家芸として伝えられた。

〔史料〕

文政十二年 河野久太郎先祖由緒井一類附帳（〇九五・一一―一五）

（表紙）

〔文政十二年〕

先祖由緒井一類附

河野久太郎

一、知行高百八十石

生国御国三十八歳

河野久太郎通義

私儀、河野三郎左衛門嫡子ニ御座候。享和元年十二月六日為御雇

分被召出、為御合力内御蔵米五石、白銀三枚被下置、父三郎左衛門頭支配被仰付、同七日寄附之御間詰被仰付、同八日御近習御兒小將役被仰付、同二年十二月二十六日思召之筋被為在候ニ付、只今迄被下置候。御合力米御引直五人御扶持被下置、文化三年十一月十九日角入袖下留可申旨被仰渡、同四年二月二十八日思召之儀被為在候間、御用番支配ニ被仰付候段被仰渡、同三月六日前髮執候様被仰渡、御近習詰被仰付、同十三年七月六日御時宜役被仰付、御近習兼帶被仰付候、文政五年閏正月十四日御上御次御内御用ニ而、金沢之御繪圖被仰付候ニ付、表向御雇も可被仰付候得共、左候而者参リ事ケ間敷相聞候間、先直ニ談候間、其心得を以右御用相勤可申旨、遠藤數馬殿直ニ御談被成、其段御達申候処、御番も御用捨被仰付御用相勤可申旨被仰出、御用相勤候内、同六年正月竹沢御殿御時鐘所被仰付候刻、御時規御用被仰付、同五月甚右衛門坂高御時鐘所御時規御用も被仰付相勤申、同何年兼而御望之時規御座候御様子ニ付、右時規私出立候ニ付、御内々入御覽候処、長ク御指留被遊候段被仰渡候。同七年十一月二日御内々於御次御懇之御意を以、御紋付御慰斗目并白銀五枚拜領被仰付、同十年二月御繪圖御用御引取江戸御供被仰付、本役并御取次御使者等相勤可申旨被仰渡、江戸表御話中も本役并御取次御使者御給仕等相勤可申旨被仰渡、同十一年正月東海道御帰館之節御供被仰付、出役并御使者御取次相勤可申旨被仰渡候。御帰館後御繪圖御用未相濟不申候ニ付、以前之通御番も御用捨被仰付相勤申候。是辺御繪圖御用御時斗御用等ニ而、七月・十二月ハ從御上御次御内々御目錄を以、拜領物被仰付候。同十一年十二月二十二日於御前父三郎左衛門儀及老年候ニ付、御仕与力御用捨被仰付、隠居被仰付、私ニ家督相続被仰付、百八十石ニ無相違被下置候。思召之儀被為在候ニ付、頭並ニ被仰付、尤前役御用捨被仰付、同日御仕与力ニ被仰付、一來御家老中月番支配被仰付、同十二年二月十九日御次御出入被仰付

候。

一、拾代祖父

河野肥前守

昔時伊予国守河野氏末孫、能州国主島山殿之近臣客家之内ニ而御座候。天正五年九月七尾城没落、是ノ先穴水ニ謙信之臣長沢筑前籠城、続連様惣軍之為御警固穴水江御発向、七尾勢一緒ニ肥前守儀も出陣仕候。続連様穴水御在陣之内、於乙ヶ崎如庵様甲勢与御一戰之節、肥前松波丹波手勢引分如庵様江奉属、乙ヶ崎ニ而合戦甲勢敗北少々軍功茂有之由、委曲者不承伝候。此砌謙信能州江乱入ニ付、穴水ノ七尾江諸軍帰陣、七尾城没落ニ付、松波常陸一同ニ城を立退、則松波ニ籠城、松波落城之時分肥前儀越後勢与数度合戦、領知之内堀松江退去、重而一戰終、於堀松戰死仕候。

一、十代祖母

不承伝仕候

一、九代祖父

河野土佐守

右肥前嫡子ニ御座候。七尾城滅亡之後、從如庵様天正八年六月二十七日被呼出、御知行三千疋之御一行致頂戴、干今家伝仕候。同十一年四月二十一日江州於志津ヶ嶽一戰之刻討死仕候。

一、九代祖母

能登国待温井山城娘

慶長十九年七月十四日病死仕候。

一、八代祖父

河野藤兵衛

土佐嫡子御座候。十八歳之時、天正十八年武州於八王寺ニ一戰之節首壹つ討取、其後文禄二年閏九月二十六日御知行三百俵之御一行、并其後同三年十二月二十一日御加増五十石被下置、阿岸与一右衛門、三井如作判形物家伝仕候。慶長五年八月三日加州大正持城攻之時、於塀際ニ討死仕候。

一、八代祖母

杉山伯耆守様御息女

正保三年十二月十八日病死仕候。

一、七代祖父

河野三郎左衛門

実ハ天野加賀嫡子ニ御座候処、藤兵衛討死仕候、以後藤兵衛娘い

とこの統御座候故、從如庵様一所ニ被仰付、名跡相統被仰付、知行無相違被下置、良慶様駿河御普請江御越之時、被召連相勤申候。慶長十九年十二月四日攝州大坂城攻之時、真田左衛門取出丸之下江着申候得者、鉄炮事之外繁ク打懸申二付、何茂伏罷在候得共、三郎左衛門立あかり鉄炮二放打懸申候。其時鉄炮手二ヶ所負申候。此儀宜申ならし候。翌年大坂御陣之節、眼病煩候故不被召連候。良剛様御勝手方御不如意之時、銀子貳百八拾目上申候得者、御満足之旨被成下、御書千今所持仕候。其後御番頭被仰付、將亦寛永四年之春岡部治部左衛門与相司御郡奉行被仰付、同年八月二十日病死仕候。御郡奉行以後拜知七原村近辺新開拜領仕候。

一、七代祖母

河野藤兵衛娘

延宝元年六月二十六日病死仕候。

一、六代祖父

河野藤兵衛

三郎左衛門嫡子ニ御座候。三郎左衛門存命之内御小將被召出、所々他国御使者等相勤申候。三郎左衛門死去仕候後跡目無相違拜領仕、御郡奉行被仰付、其後足輕頭被仰付候。延宝八年十二月二十九日隠居被仰付、其節老休与改名仕候。せかれ武左衛門江家督無相違相統被仰付候。貞享元年六月二十六日病死仕候。

一、六代祖母

天野伝左衛門娘

元禄十三年八月二十日病死仕候。

一、高祖父

河野武左衛門

藤兵衛嫡子ニ御座候。先年浦野孫左衛門騒動之節、当分為御履式台御番被仰付相勤申候。其後藤兵衛為代番御式台御番被仰付、御使等相勤申候。藤兵衛隠居被仰付、家督無相違貳百八石拜領仕候。貞享式年御広式鎖口御番被仰付候内、江戸御使等茂相勤申候。元禄十二年九月二十二日病死仕候。

一、高祖母

定番御馬廻杉本四郎左衛門娘

享保十九年九月十六日病死仕候。

一、曾祖父

河野藤兵衛

武左衛門嫡子ニ御座候。元禄十二年十二月武左衛門遺知之内百五拾石被下置、御式台御番被仰付御使等相勤申候。能州御使等教度相勤申候。宝永六年十二月御広式鎖口御番被仰付、正徳五年正月御式台御番被仰付、享保十八年十二月二十四日頭並ニ被仰付、表頭御番所相勤申候。宝暦元年十二月隠居被仰付、式人御扶持被下置候。休円与改名仕、同九年閏七月十二日病死仕候。

一、曾祖母

由緒無御座候

延享三年二月病死仕候。

一、祖父

河野藤兵衛

実者寺西市正殿家来給人組高橋善太夫与申者せかれニ御座候処、元文元年曾祖父藤兵衛養女江婿養子ニ罷成、同三年十一月被召出、為御合力内御蔵米五石白銀三枚被下置、寄附之御間詰被仰付、同四年三月御小將部屋江加人被仰付、御供御使等相勤申候。同十一月御小將横目加人被仰付、延享四年十二月御式台御横目役被仰付、宝暦元年養父藤兵衛隠居被仰付、家督相統被仰付無相違百五拾石被下置候。同三年五月諸場諸番所御番帳見届役被仰付、同五年三月御式台御取次役加人被仰付、御国横目御越ニ付御使者等被仰付候。同十年八月御使役被仰付、明和二年十一月十四日不届之趣御座候而遠慮被仰付、同四年十月十八日遠慮御免被仰付、同十二月四日寄附御間詰被仰付、同五年正月朔日御式台御取次役加人被仰付、安永八年四月会所奉行被仰付、同九年十一月頭並ニ被仰付、天明二年十月十五日御手廻御役頭被仰付、同五年七月六日隠居被仰付、三人扶持被下置候。名も仙舟与相改申候、天明八年十月六日病死仕候。

一、祖母

曾祖父藤兵衛養娘

実ハ松平治部殿御家来給人林清左衛門娘ニ而御座候処、曾祖父藤兵衛めいニ御座候而、幼少ニ養育仕置奉願養娘ニ仕候。安永七年閏

七月病死仕候。

一、父

河野三郎左衛門

藤兵衛嫡子ニ御座候。惠迪齊樣御代、安永三年十二月二十六日為御雇分御小將組ニ被召出、為御合内御藏米五石白銀三枚被下置候。同四年正月四日寄附之御間詰被仰付、同年五月朔日恭謙齊樣御部屋御次御詰加人被仰付、同八年六月朔日御近習詰加人被仰付、同九年十一月十六日父仙舟頭支配被仰付、天明二年二月八日御部屋御用達暨御納戸奉行御横目役被仰付、同五年七月六日父仙舟隱居被仰付、家督相續被仰付百五拾石無相違被下置候。同八月恭謙齊樣被遊御死去御葬式之節、御脇指持被仰付御供仕候。為御遺物御紋付御小袖等被下置候。同十一月二十五日前役共御用捨被仰付、改而当御前御附御用達并御横目役被仰付候。同月晦日奥村主水樣遠島被仰付候。其夜御用ニ付主水樣御屋敷江相詰申候。同六年五月二十六日御部屋御納戸奉行兼帶被仰付、同八年六月十三日会所奉行被仰付、尤前役共御用捨被仰付候。其節当御前於御前御紋付御帷子拜領被仰付候。寛政元年五月二十五日頭並ニ被仰付、頭番所相勤申候。尤会所奉行御用捨被仰付候。同十一月十五日御仕与力被仰付、同十二月二日御組才許被仰付、尤前役御用捨被仰付候。同三年二月二十六日御勝手奉行被仰付并勘定奉行、割場奉行兼帶被仰付、尤御組才許御用捨被仰付候。同十二月二日寺社取取役兼帶被仰付、同四年七月十八日山之内御土藏奉行兼帶被仰付、同五年三月十四日御徒頭被仰付、割場奉行御用捨被仰付候。同年十二月二十二日御懇之御書立を以御頼之趣ニ而、自秀院樣立志齊樣御部屋御用兼帶被仰付、同六年六月自秀院樣被遊御死去候節、御遺物御紋附、御肩衣等被下置候。同七月惠迪齊樣御前江被召、段々奉蒙御懇之御意御手自御紋付、御帷子拜領被仰付候。同七年十二月十日御小將頭被仰付、御徒頭御用捨被仰付候。同九年閏七月四日御近習頭被仰付、御勝手奉行・勘定奉行・山之内御土藏奉行是迄

之通兼帶被仰付、寺社所取・立志齊樣御用方御用捨被仰付候。同十二年十月惠迪齊樣被遊御卒去候節、為御遺物御紋付・御小袖等被下置候。同年十二月十八日当御前御近習頭被仰付、享和元年二月御叙爵為御礼江戸表江被遊御出府候節、御供被仰付、御道中奉行・御鉄炮奉行・御弓奉行・御具足櫃奉行・御公外向御道中御進物取斗等勘定奉行・金銀渡方奉行被仰付相勤申候。同年十二月四日中西摩兵衛元組御先筒足輕頭被仰付、御小將頭御用捨被仰付、且せかれ久太郎儀為御雇分被召出、為御合力内御藏米五石白銀三枚被下置候。同式年御前江戸表江被遊御出府候節、御小屋為受取御先詰被仰付、二月二十五日発足仕候。同年四月二十六日於江戸表御用人役被仰付、同年八月金龍院樣御入国之節、御前御供被為蒙仰候ニ付御供被仰付、御道中奉行・御具足櫃奉行・御弓奉行・御公外向御会釈御進物等取斗勘定奉行・金銀渡方奉行被仰付相勤申候。金沢御入之節騎馬御供被仰付、津幡三之御丸下馬、桐ノ木御門迄騎馬仕候。同三年閏正月十六日御懇之御書立を以三拾石御加増被仰付、改而御勝手奉行被仰付、御近習頭・山之内御土藏奉行兼帶只今迄之通ニ被仰付、同四年二月二十八日山田六郎五郎元組御持筒足輕頭被仰付、御先筒頭御用捨被仰付、文化四年二月二十八日御家老中御用番支配被仰付候。同四年三月御前金龍院樣御參府御供被為蒙仰候ニ付御供被仰付、御道中勘方先年之通被仰付、御詰中於江戸表諸事御用方相勤申候。同十一月二十六日勘方不念之趣御座候而指扣被仰付、十二月十一日御免被仰付候。同五年三月御前金龍院樣御歸国之御供被為蒙仰候ニ付御供被仰付、御道中勘方前年之通被仰付相勤申候。同七年二月御勝手方役義之筋ニ付、達而相願候趣御座候処、不届之至思召ニ不被為叶、依而同月二十七日自分ニ指扣罷在候処、三月八日御勝手奉行・御近習頭・山之内御土藏奉行御指除遠慮被仰付、同年九月十七日御免被仰付出、役所江相詰本役相勤候樣ニ被仰渡候。同八年五月立志齊

様被遊御死去候節御用被仰付、為御遺物御紋付・御肩衣等被下置

右統遠ニ相成申候。

候。文化十一年四月二十三日元亮齊様御附頭兼帶被仰付、本役勤

一、いとこ

村井又兵衛様御家来河瀬兵左衛門妻

仕御用捨被仰付候。同十二年五月二十六日元亮齊様御附改役兼帶

右統遠ニ相成申候。

御用捨被仰付候。文化二年七月十日御持弓頭被仰付、同七月二十

一、いとこ

中川八郎右衛門殿御家来岡部五郎左衛門

三日御部屋御附頭兼帶再役被仰付、同四年三月十六日於御前御中

一、いとこ

中川八郎右衛門殿御家来田平権三郎

小將頭被仰付、御持弓足輕頭御用捨被仰付候。同五年五月二十五

右統遠ニ相成申候。

日元亮齊様御附頭被仰付置候処、御死去ニ付出役所本役江焔役被

一、いとこ

北村八太夫

仰付候段被仰渡候。同八年二月朔日於御前御懇之御意を以、三男

一、いとこ

北村八太夫弟北村順吉

義三郎被召出、為御合力内御蔵米五石白銀三枚被下置、御中小將

一、いとこ

北村八太夫妹老入

頭支配ニ被仰付候、同十年七月十八日御前江戸表御用方被為濟、

一、おい

三島清次郎

御被之上ハ御養子御願被成候。其節之御用主附被仰付候段被仰出

右実者父方いとこの統ニ御座候得共、三島故源右衛門末期養

候。同十一年十二月二十二日於御前御懇之御意を以、及老年候ニ

子ニ奉願候ニ付、おいの統ニ相成申候。

付今般御仕与力御用捨被仰付、隠居被仰付為隠居料五人扶持被下

一、めい

三木善兵衛娘老入

置、家督無相違百八十石久太郎江相統被仰付候。同十二月二十六

一、宗旨者禪宗、寺者能州所口小島村龍門寺且那ニ御座候。右私先祖

日御次於御前、蒙御懇之御意御手自御紋付・御道服拜領被仰付候。

由緒并一類附如斯御座候。此外御国他国共いとこ近親類縁者無

同十三年(天保元年)九月二十八日(七十八歳三而)病死仕候。

御座候。以上。

一、母 中川八郎右衛門殿御家来岡部故権左衛門姉

文政十二年二月 河野久太郎判

一、妻 天保十年十一月二十一日病死仕候。年七十九歳。

小林平左衛門殿

一、後妻 右文政七年五月二日病死仕候。

此木左太夫殿

一、嫡子 半田内蔵助様御家来齊藤勘左衛門姉

一、父方おち 河野文太郎

一、母方おは 杉野左助

一、姉 御射手北村八太夫母

一、弟 三島清次郎養母

一、弟 三木善兵衛

一、父方いとこ 河野義三郎

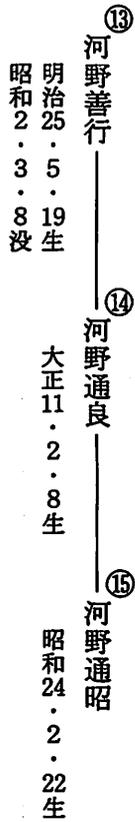
一、父方いとこ 杉野勝左衛門

河野家歴代一覽

代	名	諱・号等	家督	死亡年
1	肥前守			天正5・10・1
2	土佐守			天正11・4・21
3	藤兵衛			慶長5・8・3
4	三郎左衛門	秀次・十助・藤兵衛		寛永4・8・3
5	藤兵衛	秀照・秀武・弥次兵衛・李之助・三郎左衛門・老休		貞享元・6・26
6	武左衛門	通照・通武	貞享元	元禄12・9・21
7	団之佑	通宗・藤兵衛・休円	元禄12・9・21	宝暦9・7・12
8	左太夫	通明・貫通・隼之助・藤兵衛・仙舟	宝暦元・12・2	天明8・10・6
9	三郎左衛門	意通・久太郎	天明5・7・6	文政13・9・27
10	久太郎	通義・淡水	文政11	嘉永4・6・28
11	文太郎	正通・弥次平・青龍	嘉永4・9・28	明治22・1・16
12	震太郎	秀通・通高	明治5・7・20	大正14・9・18

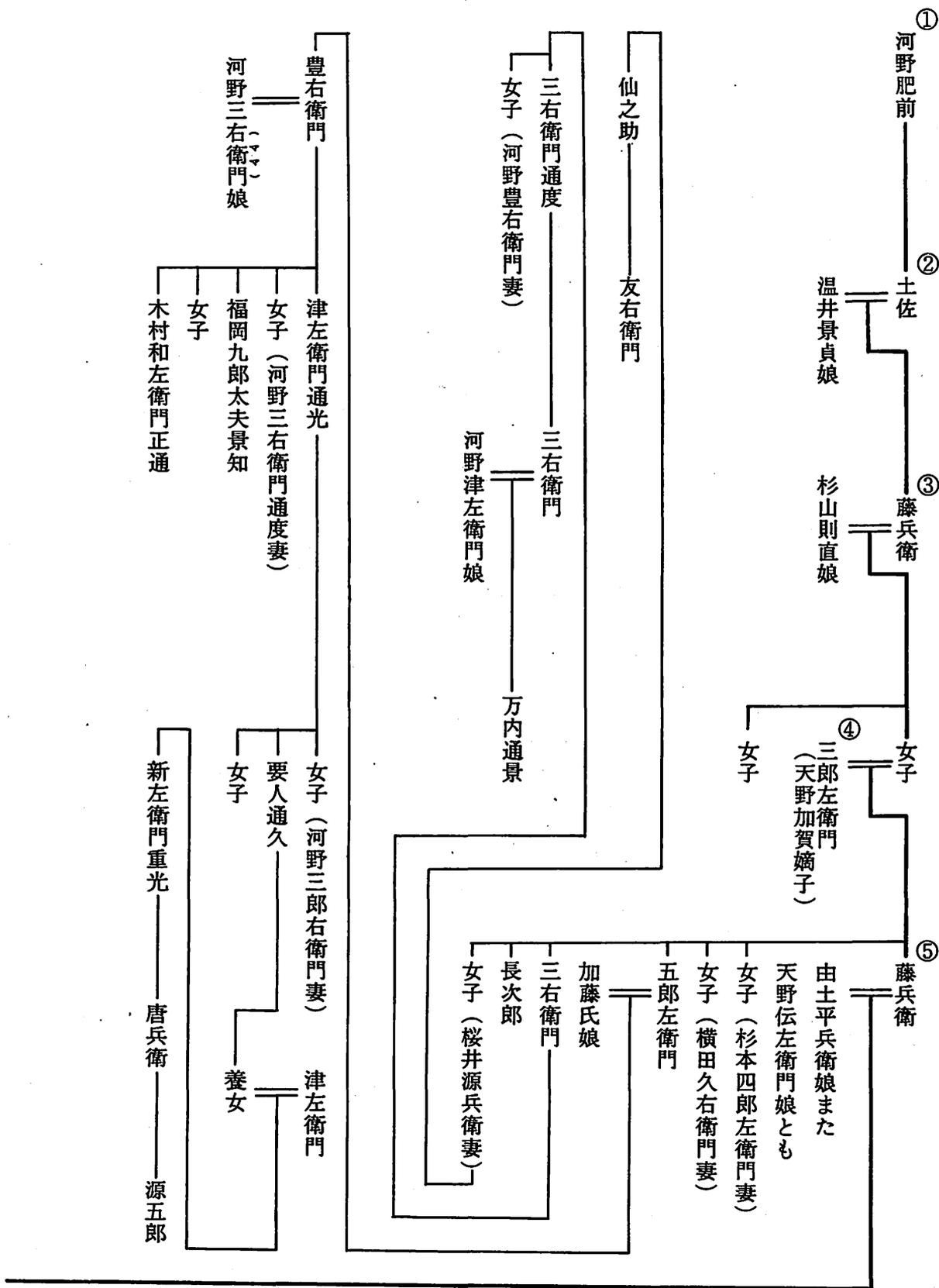
※藩政期の当主のみ

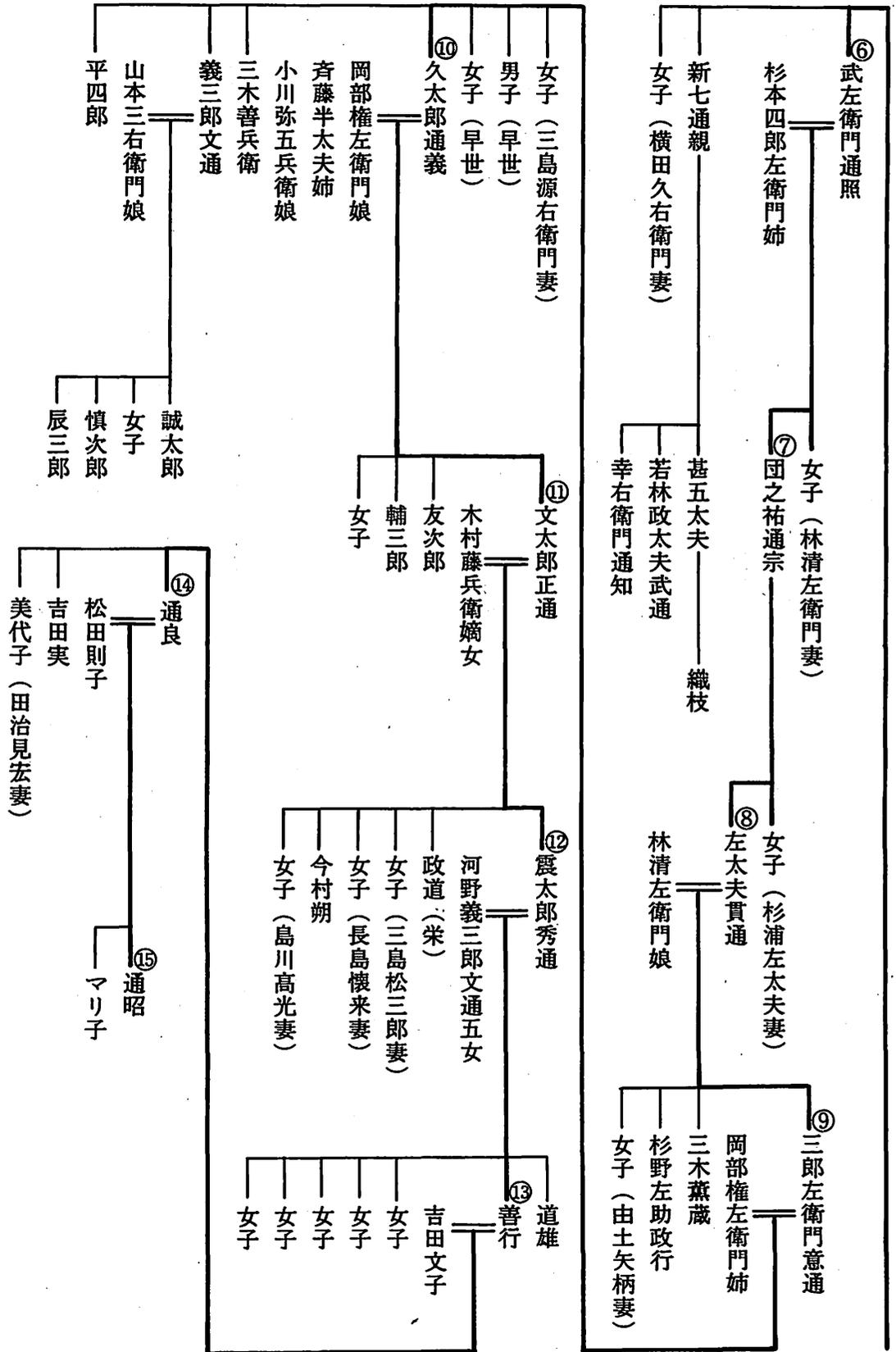
近代の当主



河野家略系図

A





「由緒書」・「長臣大系図」より作成。両者に相違のある場合は「由緒書」に拠った。

〔河野久太郎の履歴と交遊〕

久太郎の履歴は別表に概録したとおりである。ここに見られるように武術の習得は河野家の者として必須の要件であったが、絵図御用・時鐘御用などは本人の志向と勉学に基づくものであり、洋学への志向は河野家の武術習練の家風とあいまって大砲の鑄造につながり、西洋兵学の導入は藩の兵制に影響を与えるなど、久太郎の志向は本人の学問形成のみに止まらず、各方面に影響を与える事績となった。

これらの業績については先項の「河野家文書の参考文献と研究史」に記した各種研究に紹介されているので、ここでは深く触れず、これら久太郎の事績にかかわった人々を列記し、久太郎の学問形成や当時の加賀藩における学問の動向を知る上での参考としたい。

御次御用金沢十九枚絵図の作成

文政五年（一八二二）日下理兵衛・早川理兵衛と共に遠藤数馬より分間御絵図の作成を命じられる。この成果として文政十三年（一八三〇）に「金沢草図」・「御次御用金沢十九枚絵図」が作成提出されている（石川県立図書館所蔵）。これらの図は実測に主眼が置かれ、絵図作成の方法論・スタイル等で、これ以降の金沢図に大きな影響を与え、金沢城下絵図史の画期をなすといえる。

この時のメンバーは御近習御用有沢貞庸を中心とする、組付与力吉岡皆右衛門・前田権佐家伊藤左兵衛・藤田平兵衛家来清水宇八郎のグループと、御近習御用遠藤数馬を中心とする、御医者格西村太沖・割場付足軽三角風藏のほかに、前記の村井又兵衛家来日下理兵衛・玉井勘解由家来早川理兵衛と長甲斐守家来である河野久太郎のグループがいた。このほかに絵図彩色方として御算用方村田良助・遠藤数馬家来手塚七郎、紙細工方として御細工者の高林弥兵衛・小原猪太郎、測量方として土田惣助・小柳庄兵衛・岸井九兵衛・岸本三四郎・永島作右衛門・小川清太夫・吉田弥兵衛がいた。なお、遠藤グループは本多利

明・石黒信由に算学・天文学を教示された者達でもあった。

天体観測

河野文庫には、文化四年（一八〇七）のジョバンニ彗星、同八年（一八一）のフラウゲル彗星、文政六年（一八二三）のデブリューポンス彗星、同八年（一八二五）のポンス彗星、天保六年（一八三五）のハレー彗星、同十四年（一八四三）などの観測資料が残され、このうち久太郎が観測に関わったのは文政八年のポンス彗星と天保六年のハレー彗星の観測であり、関係者として遠藤高璟（数馬）・西村太沖・村田良助・柴野優次郎がいた。

時鐘・時法

文政六年（一八二三）竹沢御殿内に時鐘が設置され、久太郎は「竹沢御殿御時鐘御時規御用」に任命されている。このとき遠藤数馬は測晷牌（文化十一年作、口絵参照）を献上し、承応元年（一六五二）より加賀藩で使用されていた十三分割の不定時法を改め、十二分割の正時法を使用するようにした。この改定には遠藤数馬と共に、河野通義（久太郎）日下自明（理兵衛）・早川正身（理兵衛）が関わり、先の絵図作成・天体観測の一連のグループによる関連した作業であったといえる。

加賀藩の十二分割による時刻法は短命で翌七年（一八二四）には、「下々難波之鉢も有之」（加賀藩史料）の理由により元の十三分割法に戻された。

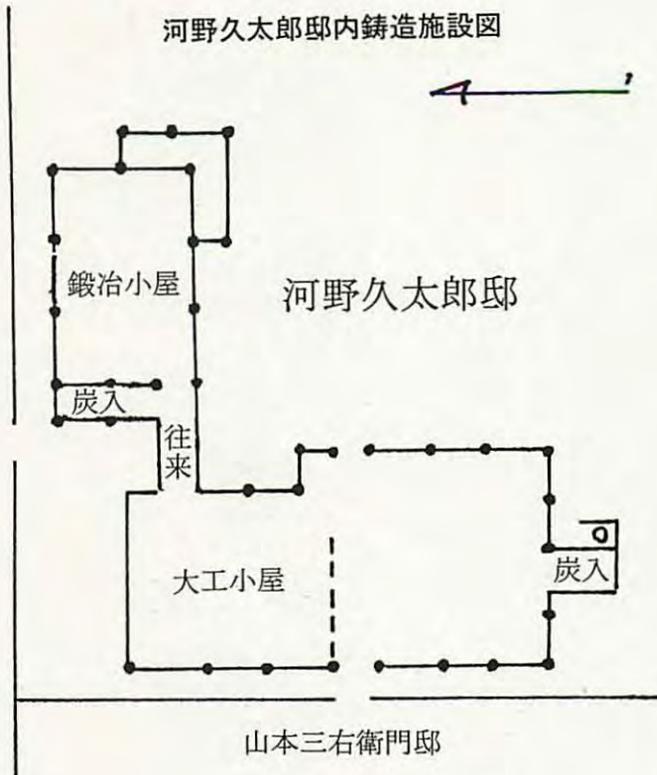
大砲鑄造

弘化三・四年（一八四六・四七）の大砲鑄造には、江戸より松下健作と下職人高橋新四郎および鍛冶職仙太郎・留五郎・長五郎・八三郎・勝五郎、鑄物師常次郎・仁助、その他宗次郎・又藏・重五郎を呼び寄せ、作業場は自邸に図の様な施設を設けた。

また、モルチール砲・ホーイッスル砲の銘に松下正綱（健作）、鑄匠（江戸住）長谷川常次郎、木匠（金沢住）野村理三郎・登沢次作・千

田安兵衛、鉄匠（金沢住）中条屋新右衛門・（江戸住）松尾仙太郎の名が記されている（「大砲御用留」より）。

砲術関係ではこの他に、久太郎の師である田原藩土村上定平、同子息周助・同上田喜作、伊予の小川八兵衛・豊田文左衛門、常陸の横手六郎、加賀藩では河辺磯吉・河野義三郎（久太郎叔父）・河島藤右衛門・留島徇藏・柴孫之丞・長五兵衛・杉野勝右衛門・田向権太郎・坂井与三右衛門・田屋新丞・桑原重之丞・友田判之丞・井上有作・山田要人・小林俊次郎・三引和七郎・河島進・河野文太郎（久太郎子息）・小原兵右衛門・中島雅吉・水上和兵衛・山本与五郎・東三次郎・久野久五郎・和田録平・下村直左衛門などが見え、このほかにも多くの弟子・孫弟子がいる。



このほか分野が雑多になるが、久太郎と交遊のあった人々の名を列記すると、文芸関係では富田痴龍・楠部屋芸台・高田方水・同文堂・武芸関係では門川孫三郎・河野義三郎・水野幸左衛門・吉田甚左衛門、天文関係では藤井三郎・同方朔、医学関係では黒川良安・江間篁斎があり、ほかには箕作阮甫・大橋作之進・辻宗牛・三島統・足立重太郎・杉山東七郎・菅屋儀右衛門・河辺貫一・岡田条之佐・斉藤三九郎・国友藤兵衛など多彩な交遊が知れる。

河野久太郎略年譜

年月日	事項
寛政4年8月24日	父三郎左衛門嫡子として出生
享和元年12月6日	召出、合力米五石・白銀三枚下賜
同 12月7日	寄付之御間詰
同 12月8日	御近習御児小将役
2年12月26日	合力米五人扶持に御引直
文化3年11月19日	角入袖下留
4年2月28日	御用番支配入り
同 3月6日	前髪執、御近習詰
6年12月	門川孫三郎より護身法伝授
10年12月1日	神岡流棒術免許
11年	「検地方一卷算法并測量之法」著
13年7月6日	御時宜役兼帯
文政3年2月25日	無拍子流剣術免許
同 11月27日	縁組願
5年①月14日	（中川八郎右衛門家来岡部五郎左衛門妹） 金沢御絵図御用（〜文政十年）

年月日	事項
文政6年1月	竹沢御殿御時鐘御時規御用
同 5月	甚右衛門坂高御時鐘御時規御用
10年2月	江戸御供、本役并御取次御使者役
11年1月	帰国、御絵図御用・御時計御用
同 12月22日	家督相続、百八十石、頭並、自分仕与力
12年11月19日	御次御出入役
13年9月	山鹿流軍学伝法免許
天保2年1月18日	御武具奉行・御組才許
同 4月6日	御絵図御用により地奉行勤
4年1月7日	徒頭役
同 2月18日	御省略奉行
5年12月2日	御武具奉行指除
6年7月18日	御小將頭役
7年3月8日	山鹿流兵法免許
同 8月	「救荒策集」著
10年9月6日	河島流火箭再興を計る
11年7月6日	御前御近習御用人役・御使役
12年7月22日	御先筒足軽頭役
14年2月19日	江戸御供、御道中奉行・金銀渡方奉行等
15年10月22日	持筒足軽頭役
弘化3年9月	モルチール砲など鑄造
4年7月25日	宇津木浜にモルチール砲など試打
嘉永2年2月12日	御上御次内御用・御近習御用
同 6月11日	高島流砲術奥儀皆伝
同 7月	妻病死

年月日	事項
嘉永4年2月1日	鉄製御筒試打
同 6月28日	病死、行年六十二才
	覚成院忠山道節居士（金沢 開禪寺）
	陽雲院義夫永忠居士（所口 龍門寺）

○で示した月は、閏月を表わす。

あ と が き

河野文庫は、半数は既に目録が作成されており、既目録によって多年にわたり利用に供されてきた。今回目録を再編成するにあたり、全面的な改訂をした訳であるが、既目録段階は数量的なものから目録区分を必要としない程度のものであり、利用に耐えないものであった訳ではない。既目録に対し今回は史料数が倍加したのに伴い、史料を活かした形で検索しやすいものということを念頭に置き、既目録では一括処理されていた史料も細録表示した。

なお、史料の主題をもって分類の基準としたが、これは必ずしも利用上の利便性を充足するものとはならず、例えば書簡類については既目録においては主題に関わらず差出者・宛所別に一括されていたが、今回は書簡という形態ではなく内容・主題をもって分類したことにより、同一人物の書簡を分離しなければならぬ部分も生じた（大方は主題と差出者・宛所群は一致）。また、これは絵図類についても言えることであり、既目録では図という形態で全てが包括されていたが、今回は地形図は別として主題を有するものは各主題項目に配分した。

以上の分類方法が河野家の史料群を活かし、利用しやすいものとなりえているか不安なところであるが、加越能文庫をはじめとする大量の近世史料を有する当館として、目録作成後も史料の体系的な整理とその利用について考えていかねばならないと感じている。

今後の課題としては、史料整理の体系化も大きな問題であるが、本目録の刊行においては御寄贈を受けてから大変な時間を経過しており、御寄贈者に対してお詫びの申し上げようも無く、公共図書館の業務の範囲・限界をいうのであれば、これらの史料の所蔵資格の有無という問題にも繋がるものであり、今後の史料収集の上からも問題を解決していかねばならないところである。

246

河野文庫目録

発行日 平成四年三月二十日

編集・発行 金沢市立図書館

〒900 金沢市玉川町二番二十号
電話〇七六二(三二)一九六〇

印刷所 田中昭文堂印刷株式会社

〒900 金沢市小坂町中七五
電話〇七六二(五二)七七八(代)